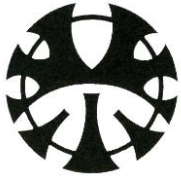


令和7年度

学校評価

- 北条小学校 . . . 総合評価、学校だより
- 大栄小学校 . . . 総合評価、成果と課題、学校だより
- 北条中学校 . . . 総合評価、学校だより①②
- 大栄中学校 . . . 総合評価

目標	めざす姿	現状	各部のめざす姿	評価基準 (評価方法)	2学期の具体的な取り組み	児童アンケート	保護者アンケート	教職員アンケート	2学期(最終評価)	
実施時期		4月			7月末作成					12月
ともに	関わり合い、思いを重ねながら創造する子	<ul style="list-style-type: none"> 地域への理解を深め、郷土に愛着をもつ子。 積極的な態度で新たな取り組みをしようとする子 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の一員であることを自覚する。 地域の方に支えられていることに気付き、感謝の気持ちをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート(記述)「友達に北条地域のことを紹介するとしたら、どんなことを紹介しますか」(人、建物、行事等の10個書きましよう。)で、CSに関する回答が1つ以上ある6割以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に続き、CS担当が、様々な行事でお世話になった人を写真で紹介する。(掲示) 活動ごとにお世話になったCSの方に、お礼の手紙を書き、CS担当が手紙を受け取った方の気持ちや願いを紹介するなど、双方向な活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価84% 達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価98% 達成している 	達成している	達成	
		<ul style="list-style-type: none"> 相手を意識した気持ちのよいあいさつをする子 学習やその他の活動を通して、進んで関わり合おうとする子 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から朝の挨拶をする児童もいるが、挨拶をされても反応しない児童もいる。 仲のよい児童とは、一緒に活動しようとするが、関わりの少ない児童とは、意図的に関わる場を設定しないと一緒に活動しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や先生に自分から挨拶ができる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで「あなたは、自分から挨拶をしている」の肯定的な回答が6割以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動の常時活動として、あいさつ当番をする。 あいさつボランティアを募って、校長先生と児童玄関で朝のあいさつをする。(8時10分まで) 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価80% 達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価88% 達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価86% 達成している 	達成
やさしく	人の思いをくみ取り、力と心を合わせようとする子	<ul style="list-style-type: none"> 互いを大切にし、支持的風土のあるいじめのない学級集団をめざす子 	<ul style="list-style-type: none"> 言われて嫌になる言葉が聞かれ、お互いが大切にされていない。 自分の気持ちを言葉で伝える力が弱く、マイナスの気持ちを暴言や暴力で表してしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな友達にも「いいね」「すごいね」が言える学級 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの肯定的回答80% あなたは学級の中で言いたいことが言えますか。 あなたは学級の中でだれにでも「いいね」「すごいね」が言えますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が率先して雰囲気づくりをする。プラスの気持ちをどう表現するかSSTを行う。 様々な場面で、子ども同士が「ほめる」「ほめられる」体験をする。(いいことみつけの継続) 仲間づくりゲームを行う。classroom、人権教育推進委員会等で、情報交換ふり返しを行う。 ネットリテラシーについて、学年に応じた学習を行う。また、6年生から発信し、上学年を中心に意識を高める取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価 73%, 85%, 89% 達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価99% 達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価79%,92%,96% 達成している 	達成
		<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の良さに気づき、お互いを大切にしようとする子 	<ul style="list-style-type: none"> まず自分自身のよさに気づいておらず、自分を大切にしていない。そのことでがんばりきれない面が見られる。 人とかかわり方の未熟さについて、家庭の影響を大きく受けている児童もいる。 自分にとって得かどうかが判断材料になっている。注意をしたら「○○さんもしていた」という言葉が聞かれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や先生に敬称を付けて名前をきちんと呼ぶ子ども 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの肯定的回答80% あなたは友達の名前を「くん」「さん」をつけて呼んでいますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 敬称をつけた名前の呼び方、丁寧な言葉づかいについて、全体指導と学年に応じた学習を行う。(2学期始め) よいこと見つけの視点に「名前の呼び方、言葉づかい」をとりあげ、注目するように声をかける。 お互いを大切にするために、「名前の呼び方、言葉づかい」を重点項目とすることを保護者へ伝え、家庭でも話題にしたり協力したりしてもらう。(学級懇談、通信等) 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的回答 78% ほぼ達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価84% 達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的回答 70% 達成していない 	達成していない
かしこく	基礎的な力を身に付け、工夫して思いを表現する子	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの意見を大事にしながらか聴く子 	<ul style="list-style-type: none"> 静かに聞くことはできるが、考えながら聞き、自分事として反応を返すことができていない。 自分が話したいことが先になり、相手の話とのつながり意識した内容になっていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見と比べながら聴き、自分事として反応する子ども。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童アンケートの肯定的回答80%(年度末) あなたは、友達の発言によりよい反応を返していますか。 友達は、あなたの発言に反応を返してくれますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期のスタート時に、よりよい反応とはどのような反応なのかを児童に聞き、よりよい反応を学級内で共有する。(定型文の反応ではなく、相手の気持ちを考えた反応を目指す。) 児童が使ったよりよい反応を教室内に掲示し、学級全体に広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的回答 返していますか89% 返してくれますか93% 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的回答81% 達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的回答83% 達成している 	達成
		<ul style="list-style-type: none"> 目標を持って学び、振り返り、自分の変容を実感できる子 	<ul style="list-style-type: none"> 授業は楽しいと言う反面、学習は好きではないと言うなど、学習意欲が低い。 学ぶことの価値を実感している児童が少なく、つまずいた時に諦めてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に最後まで取り組む子ども。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童アンケートの肯定的回答80%(年度末) あなたは、学習課題に最後まで取り組んでいますか。 ②児童の単元の振り返りの記述ができるように働きかける。 ③単元の振り返りやまとめを記述する際、算数に特有な言葉を児童と確認し、3Zで書く。 ③QUアンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学習で、単元の導入時に、学ぶことの価値(どんな力がついて、生活や今後の学習にどのように生かせるか)について児童と話を可能であれば、児童が自分で目標設定できるように働きかける。 単元の振り返りやまとめを記述する際、算数に特有な言葉を児童と確認し、3Zで書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的回答91% 達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的回答85% 達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的回答96% 達成している 	達成
たくましく	心身の健康を大切にし、思いを持って粘り強く努力する子	<ul style="list-style-type: none"> 自分で運動に取り組み体力を向上させる子 	<ul style="list-style-type: none"> 体力面にて学年間に課題がある。 運動経験の二極化 →体力テストの二極化 運動や外遊びを保証する場や機会が少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動にめあてを持って取り組むことができる子 ○体育館で体を動かしたり外遊びに親しんだりする子 	<ul style="list-style-type: none"> 各学級の実態に合わせて、柔軟性を高める運動や投げの運動を実施し、多様な動きができるようになったか。 学校生活アンケート(児童向け)6～8割。 	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭による保健指導。 体力テストの結果を分析し、それに基づいて体育学習を充実させる。(運動量を十分確保する) 体育(体づくり運動)学活(学級ごとの全員遊びなど)を仕組んでいく。 保護者への啓発活動を行う。(学級単位で) 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価89% 達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価79% ほぼ達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価87% 達成している 	達成
		<ul style="list-style-type: none"> 自己目標の達成に向けて工夫と努力を積み重ねることができる子 	<ul style="list-style-type: none"> 最後までねばり強くやり遂げるのが難しい児童がいる。 メディアコントロールできる児童とできない児童の二極化(家庭の協力の有無) 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の決めためあてに対して、できるまで粘り強く取り組むことができる子 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケート(児童向け)7～8割。 学期ごとの目標を設定し、すべての児童が達成できるようにする。(キャリアパスポート) 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに自分で目標(①水泳、②マラソン大会、③なわとび大会)を設定し、ふり返りや足跡を残す。(キャリアパスポートの様式を提案) 『北条つ子ふれあいチャレンジ』の取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価87% 達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価85% 達成している 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価96% 達成している 	達成



ほ う じ ょ う か ぜ

北条の風

北条町立北条小学校
学校だより
第16号
R8,3, 17発行
文責 小田 信之

【 いよいよ卒業式が近づいてきました 】

いよいよ卒業式が迫ってきました。全校が6年生の思い出に残る卒業式にしようと練習に頑張っています。卒業式は、6年生にとって最後の授業となりますが、この授業が小学校生活最高の授業となるようみんなの「思いやる力」を出し切りたいと思います。

【 ありがとう6年生集会 】

4日(水)、「ありがとう6年生集会」を開催しました。6年生はこれまで1年間、学校のリーダーとして全校を引っばってきてくれました。1年生から5年生まではクイズや歌等堂々とした態度で工夫を凝らした出し物を披露して、6年生を楽しませてくれました。そして、5年生は司会・進行、スローガンやメッセージ等の会場づくりに頑張り、会全体を上手にコーディネートしてくれました。6年生は「2択クイズ」をしたり「学校の7不思議調査」を発表してくれたりしました。最高学年らしい工夫があって本当に感心しました。会場全体が一体となって心温まる会となりました。これも北条小学校の素敵な伝統として引き継がれていくと思います。これも、これまで6年生が頑張ってきてく



れたおかげです。6年生のみなさん、これまで本当にありがとう！

1年生：ボディーパーカッション

2年生：思い出の劇

3年生：素敵な歌のプレゼント



4年生：6年生クイズ

5年生：歌によるメッセージ

6年生：学校不思議調査

【 あつまらいや北条さんからプレゼント ありがとうございました 】

ありがとう6年生集会に先立ち、あつまらいや北条さんから卒業生へ、写真立てをプレゼントしてくださいました。地元のワインのコルクを使った手作りの素敵なプレゼントで各クラスの思い出の写真を入れてもらいました。



＜ 2025 年度 北条小学校 学校評価 ＞

年度当初に決めた教育活動の重点項目について、児童・保護者アンケートの結果をもとに、職員会で成果・課題等を話し合いました。その協議の結果を北条中学校区学校運営協議会に報告し、本年度の評価を行いました。概要をお伝えします。(評価： A 80%以上 B 60～79% C 59%以下)

目標		めざす姿	2 学期（最終評価）		学校 自己 評価	関係者 評価	
とも に	関わり合い、思 いを重ねながら 創造する子	・地域への理解を深め、 郷土に愛着をもつ子 ・積極的な態度で新たな 取り組みをしようとする 子	CS 活動について、学習支援の掲示物や CS だ よりや学級だより等で児童、保護者にも啓発 ができたといえる。	91%	A	A	A
		・相手を意識した気持ち のよいあいさつをする子 ・学習やその他の活動を 通して、進んで関わり合 おうとする子	児童、保護者、教員アンケートにおいて肯定 的な回答が 80%に達している。	85%	A		
やさ しく	人の思いをくみ 取り、力と心を 合わせようとす る子	互いを大切にし、支持的 風土のあるいじめのない 学級集団をめざす子	・児童、教職員ともにお互いのよさを認め合 い、伝え合うことができていると感じてい る。1 学期から 10 ポイント上がっており、 「いいことみつけ」の成果が上がっていると 思われる。また、6 年生から発信された「い いねのことば」の取り組みも意識の向上につ ながったと考えられる。 ・一方で、「言いたいことが言えているか」に 関しては、児童、教職員ともに下がってお り、友達関係がうまく築けていない児童が いることが学級の雰囲気にも影響していると考 えられる。	90%	A	B	B
		自分や友達の良さに気づ き、お互いを大切にしよう とする子	・学年が上がるにつれて肯定的回答の割合が 下がっている。呼び捨てにすることで親密さ を感じている様子も見られる。場に応じた話 し方やお互いを大切にする言葉づかいにつ いての指導が十分でなかった。 ・言葉づかいについてはメディアの影響も大 きいと考えられ、学校での取り組みを保護者 にも伝え、課題を共有して取り組んでいく 必要がある。	77%	B		
か し こ く	基礎的な力を身 に付け、工夫し て思いを表現す る子	友だちの意見を大事にし ながら聴く子	・児童、保護者の肯定的回答は、中間評価か らの大きな変化はなかった。しかし、教員の 肯定的回答は大きく増加した。相手を尊重し た聴き方が意識され、浸透してきていると思 われる。「よりよい反応」をめざし、教員と児 童で具体的なイメージを共有したことや、児 童の反応を引き出す教員の働きかけが有効で あった。	85%	A	A	A
		目標を持って学び、振り 返り、自分の変容を実感 できる子	・つまずいても努力する意識や姿勢は多く見 られるが、学習意欲の向上には大きな課題が ある。国語・算数の学習が好きか、楽しい か、分かるかという問いに対する児童の回答 は、「好き・楽しい」と「分かる」の間に、大 きな隔りがある。学ぶことの価値を伝える 取り組みを、継続する必要がある。	88%	A		
た く ま し く	心身の健康を大 切にし、思いを 持って粘り強く 努力する子	進んで運動に取り組み体 力を向上させる子	・2 学期は、とび箱やマット運動を実施し、 各学年の課題を意識して取り組んだので、3 学期も引き続きボール運動などで運動面の課 題を意識して取り組みを続けていく。 ・数値では現れにくいですが、養護教諭の保健指 導で姿勢を意識できる児童が増えてきてい る。	85%	A	A	A

	自己目標の達成に向けて工夫と努力を積み重ねることができる子	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での保護者の意識と声かけで、結果が向上すると考えられるので、引き続き保護者に啓発を行っていく。 ・保護者による集計結果が即座に反映されるわけではないので、長期的な視点で分析をしていく必要がある。 	89%	A		
--	-------------------------------	---	-----	---	--	--

<次年度に向けて>

北条小学校は、CSの活動等地域の皆様に支えられ、多くの面で素晴らしい成果を上げています。一方で、「言葉遣いを通じた人間関係の構築」と「自ら学びたくなる意欲の向上」という明確な課題も見つかりました。

これらの課題を皆様と共有し、学校・家庭・地域が一つのチームとなって、子どもたちの未来を切り拓く力を育てていきたいと考えています。



学校教育目標		黒ぼくの大地に たくましく生きる子どもの育成			めざす学校像【落ち着いて安心でき、笑顔あふれる元気な学校】				
	重点項目	めざす姿	現状	具体的な取組	評価指標	中間評価	最終評価	総合評価	
かしこい大栄の子	学ぶ意欲と確かな学力向上に努める	①「やってみたい」「わかった」「生活につなげよう」主体的に学ぶ教科学習	<ul style="list-style-type: none"> 進んで課題解決に取り組み、自分の考えを表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 87%の児童が「理科は楽しい」と感じている。また、45.5%の児童が「理科の内容がよく分かる」と感じている。 「自分の考えをもつこと」「書くこと」を苦手としている児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ラーニング・マウンテンによる単元構成や単元のねらいを児童と共有する。（ゴールイメージの明確化、内容の焦点化） ペアや小グループなどの活動を取り入れ、多様な考えを引き出す授業づくりを行う。 学習の中に、3Z（時間・字数・条件）を伴った記述を取り入れる。 「わかった」「やってみたい」につながるICT機器の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科アンケート 問1：理科の学習は好きですか 問2：理科の学習の内容はよくわかりますか…肯定的評価85%以上 問6：観察や実験の結果からわかることを進んでまとめていますか。…肯定的評価75%以上。 単元の中で一問多答を意識しながら、授業展開ができたか。 学習の中に、3Z（時間・字数・条件）を伴った記述を取り入れた授業を行うことができているか。 NRTの学力偏差値平均53以上。（国語科・理科） 	74%	81%	B
		②基礎学力の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的事項を確実に身につけ、学んだことが活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年間で指導が概ね同一歩調で行えた。 朝のチャレンジタイムで国語αドリルに取り組んだり、タブレット活用をしたりしている。 主体的な学びを実現する指導を継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、基礎基本の習熟を図る。 個に応じた指導時間の確保と方法の工夫をする。 チャレンジタイムの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト・学期まとめ等の「知識・技能」の平均正答率が80%以上。 チャレンジタイムやICTを活用した学習を実施できたか。（eライブラリの活用等） 個別指導を行い、個の変容（点数の向上や「できた」「できるようになった」と実感できる態度）が見られたか。 	78%	83%	B
		③本に親しむ子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな種類の本を読み、読書力をつけ多様な見方・考え方ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語・生活・社会・総合的な学習の時間を中心に図書館で資料活用ができた。 貸出冊数を昨年度と同様としたい。（昨年度77%） 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館イベントの工夫を行う。 課題解決をするための図書資料を活用した授業を取り入れる。 教師による本の紹介と読み聞かせを行う。 読書ボランティアを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書イベントの実施を通して、楽しみながら多読ができたか。 図書資料を活用した学習を行ったか。 貸出冊数が高学年80冊、中学年100冊、低学年120冊以上の目標。高学年70%、中学年80%、低学年90%の達成率。 	81%	88%	A
		④ふるさと地域への愛着を高める	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと地域学習を楽しんで積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の生活・社会・総合的な学習の時間で地域学習を積極的に行っている。 CSと連携して地域学習を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活・社会（見学）・総合的な学習の時間など、地域学習に関する年間計画の見直しを行う。 教育活動の中で、単元の時期やねらい等、CSコーディネーターと連携し、保護者、地域の方、こども園・中学・高校との関わりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさとに関わる項目の肯定的評価が80%以上（児童アンケート） 学習後の振り返りの中で自己を見つめたり、お世話になった方へ感謝の気持ちを伝えたりすることができたか。 	79%	90%	A
やさしい大栄の子	心を耕し豊かな心を育む指導に努める	①クラスパワー（学級力）の向上	<ul style="list-style-type: none"> よりよい関係づくりのために、自分の行動や友だちへの関わり方を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 設定した目標に向かって学級全体で取り組めてきている。 意図的な取組で友だち同士の関わりがよくなっている。 友だち同士の声かけによって、ポイントアップしていく取組が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じた目標の設定を工夫する。（花丸や掲示物評価など、自分たちの取組が視覚的に分かるようにする。） 他の学級のクラスパワーアップ会議の様子を情報交換して、学級に取り入れる。（「ほめほめシャワー」の取組を使って短時間で実践する。） CCCT（クラス・カルチャー・タイム）を行う時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級で成果が上がる目標設定となったか。また、目標達成に係る視覚的支援ができたか。 クラスパワー会議のもとに、人間関係づくりを進める6項目の中から高めたい力（1つか2つ）を選び、数値を高めるための具体的な活動やCCCTを実践できたか。 2回のQU検査の結果、学級全体が望ましい方向に変容したか。 	74%	81%	B
		②グッド・コミュニケーションの育成	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちのよい明るいあいさつや返事・言葉遣いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に比べ、あいさつができる児童が増加している。 地域でのあいさつがよくなってきている。 正しい言葉遣いや名前の呼び方ができていない場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の取組や学級内での日々の指導の積み上げを行う。 グッド・コミュニケーションを向上させるためにSST（ソーシャル・スキル・トレーニング）やCCCT（火・木）の活用をする。 各種アンケートを日常の指導に活かす。（生活をふりかえろう、学校・町のいじめアンケート・QU） 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつや返事に関するアンケートで肯定的評価が80%以上。（児童アンケート8） 児童の日常生活における言動に良好な変容が見られたか。 各種アンケートを分析し、早期解決・早期対応に努めたか。 	83%	81%	B
		③子どもの特性に応じた特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自分を肯定的に理解し、自信をもって生活する。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境の変化によって、学校生活への適応が難しい児童がいる。 大勢の中では、気持ちを伝えにくい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に対する適切な理解と支援方法の検討 児童の成長とそれに合わせた対応 校内の各種委員会の充実 級外職員も含めた学校全体の組織的な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童数が減ったか。 けがや発熱以外の保健室利用の児童が減ったか。 SSTによって児童の言動に変容があったか。 自己肯定感に対するアンケートで肯定的評価が80%以上となったか。（児童アンケート14） 	79%	86%	A
たくましい大栄の子	運動好きで健康な子どもの育成に努める	①体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> めあてをもって体力づくりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 柔軟性が改善傾向にある。上体起こしの数値が低い。そのため、姿勢の保持が難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果をふまえ、北栄スポーツクラブの指導員による指導を計画し、1・3・5年で体づくり運動の学習を実施する。 柔軟性と投てきを意識した運動を時期をみながら取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の体力テストでは、前年度の結果より向上が見られたか。全国平均値程度であるか。 各学級の実態に合わせて、柔軟性を高める運動や投げる運動を実施し、多様な動きができるようになったか。 	74%	87%	A
		②健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 食事・生活（メディアを含む）リズムを整え、健康な生活ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き、朝ごはん、グッド・コミュニケーションの習慣が確立されつつある。 児童アンケートでテレビやゲームの利用2時間以内が守れている児童が72%であった。 昨年度のうち歯の治療率が59%で低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭を活用した食育の推進を図る。 給食委員会による給食の食材を放送で紹介する。 個人懇談で長期休業中の受診を勧める。 PTAの健康教育推進部で課題を共有し、具体的な取組を行っていく。 メディアコントロール調査の結果をもとに、指導や啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食委員会や栄養教諭を活用した食育の推進を行ったか。 う歯の治療率が60%以上になったか。 学校保健委員会やPTA健康教育推進部で、児童の健康課題を共有し、対策を考えることができたか。 「生活をふりかえろう」アンケートでテレビやゲームの利用が2時間以内で守れている児童が75%以上。 	74%	83%	B

【評価の基準】 A：十分達成（85%以上） B：概ね達成（70%以上） C：やや不十分（60%以上） D：不十分（60%未満）

令和7年度 北栄町立大栄小学校 スクールプラン (成果と課題)

2月5日

	重点項目	成果	課題	改善策	総合評価
かしこい大栄の子	①「やってみよう」「わかった」「生活につなげよう」主体的に学ぶ教科学習	・理科アンケートで85%以上が「理科が好き」と答えた。 「生活に生かせる」という回答も多い。 ・ラーニング・マウンテンを作っておくことで見通しをもって授業ができた。	・理科が好きの子が多いが、テストの正答率は低い。 ・「好き」を「分かる」につなげたい。 ・ラーニング・マウンテンを作るタイミング、もう少し余裕を持っていきたい。	・指導者の意識を変える。実生活につなげる授業づくりなど ・ラーニング・マウンテンを使いまわせるように、各学年が次年度のために整理、準備しておくとい	B
	②基礎学力の確実な定着	・知識・理解の正答率80%以上 ・Eライブラリを使うことで個別最適の学習が進められた。 ・チャレンジタイムがあることで子どもたちがいろいろな問題に触れられた。	・低位の子への支援も大切だが、中位、上位の子たちをもっと伸ばせるような取組が必要。全体の底上げにつなげる。 ・Eライブラリの使い方に課題がある。達成率が不十分のまま進ませない。 ・基礎基本の定着が不十分。	・非認知能力を高める取組をする。 ・興味のあるものだけでなく、苦手をつぶす自主学習ができるよう声を掛ける。 ・語彙をふやす取組をする。(マイディクショナリー等)	B
	③本に親しむ子どもの育成	・図書館のイベントのおかげで子どもたちが本に触れる機会が増えた。	・借りたけどきちんと読んでない子がいる。 ・家庭での読書習慣をつけていきたい。	・帰りの会の時間を使って日直が本の紹介するなど、子ども同士で紹介し合う機会をつくる。	A
	④ふるさと地域への愛着を高める	・ゲストティーチャーによる授業 ・CSの活用(しめ縄、ゴミ拾い、かけ算九九、むかし遊び等) ・家庭科ボランティア	・特になし	・今年度通り交流を行い、ふるさと地域への愛着を高めていきたい。	A
やさしい大栄の子	①クラスパワー(学級力)の向上	・具体的な目標を立て、次へ生かしている。 ・話し合いの進め方が上手になった。 ・クラス全体で意識し、パワーが向上してきている。	・定期的に目標達成できているか確認ができていない。 ・項目が多くて振り返りが難しい	・目標に対して確認する時間を作る。(中間評価など) ・項目について再検討もあり。 ・確認するものを1つに絞って継続していく。	B
	②グッド・コミュニケーションの育成	・あいさつできる子が増えた。 ・委員会の発表などで声が大きくはっきり言える児童が増えた。	・昼に出会ったときのあいさつが課題。 ・分からないことを遠慮して言えない子がいる。 ・あいさつ以外の声は小さい。(授業の初め、終わり、返事) ・ちくちく言葉だという認識を持たず発言してしまっていることがある。	・どこでもいつでも挨拶をするように意識づけさせる。 ・日頃からコミュニケーションをとって、信頼関係を築く。 ・返事を返すよう粘り強く声をかける。 ・アンテナを高くし、相手を傷つける言葉だと伝える。	B
	③子どもの特性に応じた特別支援教育の充実	・リラックスタイムで落ち着いて活動を始められる。 ・専門的な見方が学べた。	・通常学級で支援が必要な子への対応を考える必要がある。	・教育力の向上を目指す。	A
たくましい大栄の子	①体力の向上	・体育の学習で、鉛筆転がり→体のバランスが◎ ・朝運動 →ハードル、縄跳びなど楽しい工夫 ・BGの指導員さんの指導	・朝運動への取り組む姿勢に個人差がある。固定化 ・体力テストの結果で成績が低いもの(ボール投げ、柔軟)に取り組む。 ・アキレスけんを伸ばす道具の工夫	・授業中に取り入れる。 ・朝運動で取り入れる。(例)学級対抗 ・道具の工夫(職員作業で作る)	A
	②健康づくり	・栄養教諭による食育指導◎ ・感染症の数が少ない。 ・保健室へ来室人数が少ない ・早寝早起き運動ができている児童が多い。 ・規則正しい生活をする児童が多い。 ・リラックスタイムの効果◎	・メディアのルールが定まっていない。(睡眠時間が短い) ・歯磨きが雑になっている児童がいる。	・歯磨チェック ・家庭への啓発 ・リラックスタイムの工夫(例) ・子どもたちの意見を聞いてみる。 ・時間や機会を検討する。	B



黒ぼくの大地

いよいよ卒業式

いよいよ卒業式まであと6日となりました。6年生は毎日のように卒業式の練習に取り組んでいます。卒業式は、6年生にとって最後の授業となりますが、この授業が小学校生活最高の授業となるよう「何事にも一生懸命に取り組んできた」6年生の素晴らしい姿を見せてほしいと願っています。



6年生ありがとう集会

3月4日に全校児童による6年生ありがとう集会が開かれました。この集会は5年生が中心となり、「いままでの感謝をせいいっぱい笑顔でつたえよう」のめあてを掲げ、会の企画から当日の準備や運営、飾りつけなど5年生が役割を分担して進められました。会の中では各学年が、6年生にちなんだ劇やクイズ、ダンスなどを通してこれまで学校を支えてくれた6年生に感謝を伝えました。6年生からも楽しい劇とクイズ&ダンスが披露されました。下級生の心のこもった出し物やプレゼントに目を細めて喜ぶ姿が印象的でした。



本年度学校評価について

年度当初に決めた教育活動の重点項目について、児童・保護者アンケートの結果をもとに、教職員で成果・課題等を話し合いました。その協議の結果を大栄中学校区学校運営協議会に報告し、本年度の評価を行いました。概要をお伝えします。(詳しくはホームページに掲載します。)

(評価: A 十分達成 B 概ね達成 C やや不十分 D 不十分)

<学ぶ意欲と学力の定着・向上に努める>

- ① 「やってみよう」「わかった」「生活につなげよう」主体的に学ぶ教科学習【B】
- ② 基礎学力の確実な定着【B】
- ③ 本に親しむ子どもの育成【A】
- ④ ふるさと地域への愛着を高める【A】

(成果)

- 理科アンケートで85%以上が「理科が好き」と答えた。「生活に生かせる」という回答も多い。
- ラーニング・マウンテンを作っておくことで見通しをもって授業ができた。
- 知識・理解の正答率が80%以上となった。
- Eライブラリを使うことで個別最適の学習が進められた。
- チャレンジタイムがあることで子どもたちがいろいろな問題に触れられた。
- 図書館のイベントのおかげで子どもたちが本に触れる機会が増えた。
- CSの活用(家庭科ボランティア、しめ縄、ゴミ拾い、かけ算九九、むかし遊び等)が効果的(課題)

△理科が好きな子が多いが、テストの正答率は低い。「好き」を「分かる」につなげたい。

△Eライブラリの使い方に課題がある。達成率が不十分のまま進ませないようにする。

△本は借りたけどきちんと読んでない子がいる。

<心を耕し豊かな心を育む指導に努める>

- ① クラスパワーの向上【B】
- ② 生活習慣の定着【B】
- ③ 子どもの特性に応じた特別支援教育の充実【A】

(成果)

- 具体的な目標を立て、次へ生かしている。
- 話し合いの進め方が上手になった。クラス全体で意識し、クラスパワーが向上してきている。
- あいさつできる子が増えた。委員会の発表などで声が大きくはっきり言える児童が増えた。
- リラックスタイムで落ち着いて活動を始められる。

(課題)

△学校を訪問された方に対し、昼に出会ったときのあいさつが課題。

△分からないことを遠慮して言えない子がいる。あいさつ以外の声は小さい。

<運動好きで健康な子どもの育成に努める>

- ① 体力の向上【A】
- ② 健康づくり【B】

(成果)

- 体育の学習で、鉛筆転がりを入れることで体のバランスがとれるようになった
- 朝運動で経験したハードルや楽しく工夫された縄跳び運動に興味をもてた。
- B&Gの指導員さんの指導が良い影響を与えた。
- 栄養教諭による食育指導を全学年で実施され、食の大切さを学ぶことができた。
- 昨年度と比べ保健室へ来室人数が少なく、落ち着いた生活、健康に気がつけた生活ができた。

(課題)

△朝運動への取り組む姿勢に個人差がある。体力テストの結果で成績が低いものに取り組む。

△歯磨きが雑になっている児童がいる。

* 次年度も、拳がっている課題を解決しながら、よりよくなるよう進めていきたいと思っております。ご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

『子どもの笑顔』～児童の活躍～ (敬称略)

- 第28回中部ミニバスケットボール新人戦
男子の部 第3位 北条ミニバスケットボール少年団
- 中部地区陸上協会表彰
優秀賞 青島 聖 穂山 誉叶 片山 心菜 山本 詩

○教育目標		主體的に学び 自己実現に向かう ころ豊かな生徒の育成													
重点目標	本年度の努力事項			具体的な方策	評価指標 生徒：生徒アンケート 保護者：保護者アンケート	7月	7月 %	中間 評価 7月	12月	12月 %	期末 評価 12月	最終 評価 12月	学校 自己 評定	関係 者評 定	学校の所見・改善策
	項目	目指す姿と現状													
1 主體的・対話的に 学び合い、考え、 活動(表現)を広げ 深めていく授業 づくりと学力向上	1-1 ・基礎基本の定着と、思考力判断力表現力の伸長	目指す姿 ・基礎基本が身につく、活用しようとする ・生徒が単元や本時のねらいと本時の学習の流れを把握している。 ・生徒が学習課題に果敢に取り組む。	現状 ・学習課題や学習活動が分からないまま授業に参加している生徒がいる。 ・素直に教師の言葉を受け入れて学習するが、その場だけに基礎学力の定着が難しく、まとめたり、表現する力が弱い。 ・ICT機器を効果的に活用する。	・毎時間の授業の「学習のめあて」と「学習の流れ」を具体的に黒板に明示し、終わりに振り返りカードなどを活用した振り返りをする。 ・本時のねらいに即した学習課題や学習活動を計画的に設定する。 ・学習内容をわかりやすく伝える工夫をする。(言葉、文字、映像など) ・ICT機器を効果的に活用する。	<生徒(自分は～)> 1・授業に粘り強く取り組む 2・授業の内容が理解できている <生徒(先生は～)> 2・めあてや流れをわかりやすく示す 2・3・内容をわかりやすく伝える工夫をする <保護者(学校は～)> 2・わかりやすい授業をしている	1 84% A 2 83% A 22 86% A 23 86% A	78.2%	B	1 88% A 2 82% A 22 91% A 23 91% A	82.4%	A	B	B B B	・生徒のアンケート結果と実情との乖離が感じられる。アンケート時期が重なるので、アンケートの取り方や精査が必要かもしれない。 ・掲示してある授業への向かい方を確認して、授業のめあてに対して、自分が目的を持って取り組めるように啓発する。 ・ICTを活用して、仲間と学び合う姿が多く見られるようになった。また、学び方を個別に選び、取り組む姿も見られるようになった。 ・主体的に取り組める家庭学習とは何か、が課題。学校が出す課題という時点で主體的でなくなってしまうのではないか。家でもやってみたくなる課題に繋げる授業デザインを考えていく。 ・年間を通して学習規律が身についていっているが、生徒が授業に向かえるように継続して指導を行う。	
	1-2 ・関わり合いのある授業づくり	目指す姿 ・「聴き方」を意識し、学習規律が守られているが、先生や友達の話最後まで聞く姿勢や粘り強さが課題である。 ・学習規律が定着していない生徒も見られる。 ・意見を持って対話するような学び合う関係性やスキルがまだ築かれていない。	現状 ・全体的には落ち着いて授業を受けているが、先生や友達の話最後まで聞く姿勢や粘り強さが課題である。 ・学習規律が定着していない生徒も見られる。 ・意見を持って対話するような学び合う関係性やスキルがまだ築かれていない。	・聴き方のルールを意識して、自ら学び合いに参加させる。 ・状況に応じてペアやグループを活用し、クラス全体が学びやすい環境をつくる。 ・グループ学習やペア学習を効果的に行い、問題解決に向けて粘り強く取り組ませる。	<生徒(自分は～)> 3・人の話をしっかり聞いている 4・落ち着いた授業態度である <生徒(先生は～)> 2・4・自分で考える時間やグループやペアの時間を確保している <保護者(学校は～)> 3・落ち着いて授業に取り組む指導をしている	3 91% A 4 86% A 24 87% A 3 53% C	79.3%	B	3 93% A 4 90% A 24 93% A 3 62% C	84.3%	A	A			
	1-3 ・家庭学習の習慣確立	目指す姿 ・生徒が家庭学習をする意義を理解している。 ・生徒が進んで家庭学習をする。	現状 ・家庭学習をやりきる習慣が身につけていない生徒が見られる。 ・家庭学習の時間が少ない生徒が多い。	・家庭学習に対する意識や方法を継続的に指導する。 ・授業と結びついた宿題を継続的に出す。 ・家庭での生活のリズムを意識させる。 ・未提出の生徒の実態を把握し、家庭との連携を密にする。	<生徒(自分は～)> 6・出された課題をしっかりと提出している 7・課題以外の学習に進んで取り組んでいる <生徒(先生は～)> 2・5・ねらいや取り組み方を教えてくれる <保護者(学校は～)> 4・生徒が取り組めるよう工夫している <保護者(家庭は～)> 1・3・自主的に取り組むよう声かけをしている	6 81% A 7 62% B 25 81% A 4 44% C 13 91% A	71.5%	B	6 90% A 7 69% B 25 84% A 4 46% C 13 88% A	75.3%	B	B			
2 夢や目標を持ち、 進んで粘り強く最 後まで物事をやり きる態度の育成	2-1 ・生徒の自治的・自主的な活動の充実	目指す姿 ・日々の生活の中にある自分達の課題に気づき考え、生徒の力で解決することができる。 ・学校行事等への主体的な取組ができ、自分への信頼を高めることができる。	現状 ・係や当番活動など決められた自分の仕事はきちんとできる生徒が多いが、それ以外に工夫する力は弱い。 ・全体の動きよりも個人のことが優先され、活動の開始を意識できない生徒が見られる。 ・自主的、主体的に考えて行動する力が弱く、安易な方向に行こうとする。	・生徒の手による学校行事になるよう、生徒や生徒会へ計画的で適切な支援をし、達成感や充実感を味わえるようにする。その結果として、生徒の主体性や責任感を育てる。 ・帰りの会などでの授業評価や美化評価から、学級の成果や課題を共有し、生活の改善ができる。 ・月2回の生徒集会や専門委員会・代議員会の実施をする。 ・教員の肯定的な声かけ(ボイスシャワー)を増やし、生徒に自己肯定感や有用感を持たせ、教員との信頼関係の向上も図る。	<生徒(自分は～)> 7・行事に進んで取り組む 8・係活動・委員会活動を積極的に行う 9・帰りの会の授業評価や美化評価を学校生活に役立てる <生徒(先生は～)> 2・6・係活動・委員会活動に積極的に関わる 2・7・頑張ったことを認める声かけをする	7 81% A 8 87% A 9 76% B 26 81% A 27 74% B	79.6%	B	7 90% A 8 92% A 9 85% B 26 88% A 27 85% B	87.7%	A	A			
	2-2 ・対話を通して育む、自ら考え、判断し行動する力の育成	目指す姿 ・みんなが納得できる解決策を考えるために、お互いの違いを理解した対話ができる。 ・適切な言葉を遣い、自分の思いを他者に伝えることができる。 ・正直に苦手なことを語り合い、素直に助言を受け止め、誠実に努力を重ねる。	現状 ・指示されたことに対して素直に取り組む生徒が多いが、自分の意見を持つたり、表現する力は弱い。 ・お互いの違いを認め合いながら話し合う力は、全体的に高くなく、精神的にも幼い生徒が見られる。 ・自分の良さ気付かず、自信のない生徒が多い。	・様々な場面で、自分自身をより理解し、自らの生活をより良くしていくための振り返りをする。 ・授業での話し合い活動、学級での班活動などを多く取り入れ、コミュニケーション能力の育成や人間関係づくりを進める。 ・生徒同士で認め合う機会を作る(ボイスシャワー、認め合い、他者評価)・ 具体的アンケート(どんなことに自信があるか、ないかなど)を、情報収集・生徒理解のために実施する。 ・学校運営協議会を通して、外部の方と交流する機会を増やし、地域の中で生徒を育てる。 ・SSTなどを通して、自分の感情や言動をコントロールする力、折り合いをつける力を身に付ける。	<生徒(自分は～)> 10・自分のことが好きである 11・自分の生活をより良くしようとしている 12・対話を通して、友達との人間関係づくりに取り組む 13・地域の行事やボランティア活動に進んで関わる <生徒(先生は～)> 2・8・自分の意見を出したり、友達の意見を聞く場をつくる 2・9・地域の行事やボランティア活動等の情報を提供する	10 49% C 11 79% B 12 82% A 13 63% B 28 82% A 29 72% B	71.1%	B	10 62% C 11 86% B 12 89% A 13 78% B 28 90% A 29 78% B	80.3%	A	B			
	2-3 ・キャリア学習の推進と進路指導の充実	目指す姿 ・自分の将来について夢や志を持ち、日々努力できる。	現状 ・将来の目標や人生設計を見いだせていない生徒が多い。 ・自分自身の良さや能力に気づいていない生徒が多い。	・社会人講話(1年)、ワクワク北条、高校に学ぶ(2年)高校説明会(3年)等の学年行事により、3年間を見通して、計画的に生徒の進路意識を積み上げる。	<生徒(自分は～)> 14・将来の夢や目標に向けて頑張っている 15・自分の良いところを知っている <生徒(先生は～)> 3・0・将来の事や進路、学校生活の向上についてアドバイスする <保護者(家庭は～)> 14・子供の進路について相談に乗っている	14 71% B 15 56% C 30 64% B 14 90% A	70.2%	B	14 78% B 15 72% C 30 83% B 14 90% A	80.9%	A	B			
3 人権意識の醸成及び豊かな人間関係づくりといじめ・不登校の未然防止	3-1 ・違いを理解し、他者を尊重し合う意識の醸成	目指す姿 ・誰もが安心して生活し、力を伸ばし合う環境を生徒が主体となって作ろうとする。 ・差別や不合理的な見抜き許さず、仲間と力を合わせて問題を解決していこうとする生徒同士の関わりができる。	現状 ・小学校からの関係をもとに、適度な距離感を持ち、励ましや声掛け、協力ができる。班などの話し合い活動が活発である。 ・お互いの違いを認め合いながら話し合う力は、全体的に高くなく、精神的にも幼い生徒が見られる。 ・短期的に思いつくままの発言をしてしまう生徒もいる。	・人権宣言など、生徒会活動を通して、「人を大切にし、いじめを許さない」集団づくりを進める。 ・他者の言葉を紹介したり、お互いに頑張っている様子が伝わるような掲示物の工夫をする。(互いに認め合う場面を設定する。) ・生徒相互の話し合い活動を多く設定し、より良い解決法を話し合いによって導き出す手助けをする。 ・グラドルルールを意識し、実践させる。	<生徒(自分は～)> 16・良くないことは良くないといえる 17・困っている友達の手助けをする <生徒(先生は～)> 3・1・良くないことは良くないといえる <保護者(学校は～)> 5・互いに協力し合う関係を築く指導をする <保護者(家庭は～)> 14・互いに協力し合う関係を築く指導をする	16 67% B 17 91% A 31 87% A 5 52% C 14 90% A	77.3%	B	16 79% B 17 90% A 31 92% A 5 64% C 14 90% A	82.9%	A	A			
	3-2 ・基本的な生活習慣の確立	目指す姿 ・規則や約束、時間を守って生活することができ、自分の仕事を最後までやりきる。 ・協力しながら高め合う集団づくりができていく。	現状 ・規則や約束、時間を守って生活しようとする生徒が多い。 ・問題が起きた時に、自分たちで解決しようとする姿や、そうでないときは教師に相談して解決しようとする姿が見られる。	・短学活や各委員会の点検活動などを活用し、規則や時間・やるべきことができるように指導を継続する。 ・期待する言動を具体的に示し、それを目標に活動に取り組ませるとともに、評価を丁寧に示し、次の活動の意味付けを行う。	<生徒(自分は～)> 18・あいさつをする 19・時間を守る 20・きまりを守る <生徒(先生は～)> 3・2・きまりの指導をきちんとする <保護者(家庭は～)> 15・きまりの指導をきちんとする	18 83% A 19 87% A 20 92% A 32 83% A 15 89% A	86.7%	A	18 88% A 19 95% A 20 96% A 32 91% A 15 92% A	92.4%	A	A			
	3-3 ・いじめ・不登校の未然防止・早期対応	目指す姿 ・いじめにつながる言動に対して生徒がお互いに注意しあえる。 ・いじめや不登校傾向を早期発見・早期対応できる。	現状 ・善悪の判断はついていても、固定化した人間関係の中で、正しいことが言えない生徒がある。 ・アンケートや教育相談などを通し、早期発見・早期対応に努めている。 ・外部機関との連携強化が図られている。	・「いじめ防止とより良い人間関係づくり」のための学習を計画的に行う。(道徳・学活) ・生徒支援委員会を通して、学年や学級をこえた教師間で情報交換や相談活動を行う。また、いじめアンケートにより、いじめを早期に発見し、適切に対応する。 ・ハイパー-QUの分析を活用し、要支援生徒を発見するとともに、親和的な集団づくりへの手立てを話し合う。	<生徒(自分は～)> 21・適切な言葉遣いをする <生徒(先生は～)> 3・3・困っている生徒の相談に乗る <保護者(学校は～)> 6・いじめや不登校問題に対応する <保護者(家庭は～)> 16・子供に寄り添い、子供の意見に耳を傾ける	21 79% B 33 69% B 6 37% C 16 93% A	69.5%	B	21 83% B 33 74% B 6 49% C 16 91% A	74.2%	B	B			
	3-4 ・生徒の教育的ニーズの把握と共通理解、専門機関との連携による支援体制の充実	目指す姿 ・生徒が学校生活に困り感を感じることなく生活出来る。 ・専門機関の知見を求めることで、より適切な支援ができていく。	現状 ・必要な支援の内容が十分把握できていない生徒と、把握できていない生徒がいる。 ・適切な連携ができるまでに時間がかかる。 ・本人、保護者の理解が進まないことがある。	・定期的な校内委員会(ケース会議・支援会議・就学指導委員会<年3回)>を実施する。 ・教育相談アンケート、及び、教育相談週間を年2回行い、生徒理解に努める。 ・困り感のある生徒について、関係機関や保護者と連携し、多面的な角度から対策を立てる。 ・「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と評価を進める。(前期/後期)	<保護者(学校は～)> 7・いつでも相談できる <保護者(家庭は～)> 17・学校と意思の疎通を図る努力をしている	7 62% B 17 66% B	63.7%	B	7 66% B 17 70% B	68.1%	B	B			



3月になり、今年度も残り1ヶ月となりました。前号で「去る3月」と書きましたが、3月の異称は、「弥生（やよい）」です。「弥（いや）」は「いよいよ、ますます」などの意味。「生（おい）」は「草木が生い茂る」という意味があり、冬が終わって草木が芽吹き生い茂る季節を表現しています。また、3月5日は「啓蟄（けいちつ）」です。植物だけでなく、土に隠れていた虫も地表に出てくる頃です。菜の花が鮮やかに開花するこの時期は、花冷えや寒の戻りもありますが、ひと雨降るごとに暖かくなり、少しずつ、しかし確実に春へ向かいます。

3年生のみなさんはいよいよ卒業ですね。中学校の3年間でいろいろな経験をし、仲間と一緒にたくさんの思い出をつくったことと思います。その思い出を大切にするとともに、中学校で学んだことを糧として今後も努力を続け、新しい世界へと羽ばたいてください。

1, 2年生のみなさんも4月からはそれぞれ2年生、3年生に進級します。授業や諸活動に真剣に取り組むことがこれまで以上に必要になってきます。これまで3年生が見せてきてくれた姿を思い出してみましょ。真摯に学習に取り組む姿、一生懸命に部活動に取り組む姿、リーダーシップを発揮してくれた学校行事での姿、友だちを大切にする姿、数え切れないほどたくさんの素晴らしい姿を私たちに見せてくれました。3年生が残してくれた北条中学校の歩みをしっかりと繋ぎ、今後も自他ともに誇れる学校を皆で築いていきましょう。また、新入生が入学してきますが、一歩先を行く先輩として優しく、温かく接してください。

生徒表彰 2月21日（土）

毎年北条町では、優れた活動を行った小・中学生を表彰しています。本校からも多くの生徒が各賞を受賞しましたので紹介します。受賞者の皆さん、おめでとうございます。〈敬称略〉

【児童生徒表彰】

◇学芸賞 中口歩実 ◇健康賞 大野心絆 ◇親切賞 羽合泰造

【スポーツ表彰】

◇スポーツ敢闘賞

〈柔道〉加藤翔輝

〈水球〉佐野侏夢

〈バスケットボール〉榎本翔稀、山本淳、門脇拓馬、柘田爽、野間田銀次郎、山根湊、町遥真、柘田彪

〈陸上〉門脇美紅

〈バレーボール〉牧田幸姫、松本結衣、北中瑛太、山根謙信

〈硬式野球〉荒川隼也

◇スポーツ奨励賞

〈柔道〉加藤悠樹、田中夢乃

〈水泳〉山崎心葉、宮下滉翔

〈卓球〉村尾暁、吉村颯真、瀧下瑛人、岩垣光、山本唯人、西村希、山根日向、中田龍希、羽合泰造、河井孝太

木村モモ、柏木莉緒、倉光真衣、吉木一花、淀瀬にこ、山田多穂、鈴木理桜



第31回卒業証書授与式について

- (1) 日時 令和8年3月10日(火)
開式 午前9時30分
閉式 午前11時00分(予定)
- (2) 場所 北条町立北条中学校体育館
- (3) 留意事項 玄関前は来賓駐車場となります。駐車はご遠慮ください。



家庭教育12か条

3月は

「家庭学習でしっかり復習」



北条中HP



○学校評価のためのアンケート結果から

学校では、来年度の教育課程編成に向けた準備作業に入っています。そのための大切な資料として、2学期末、学校評価のための生徒・保護者アンケートを実施いたしました。今回は、アンケートの結果について報告します。この結果をもとに、本校の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の方々からご提言をいただきます。ご協力ありがとうございました。

(1) 生徒アンケート 自分は (そう思う・だいたいそう思う) %		1 学期	2 学期
①	授業に最初から最後まで粘り強く取り組んでいる	83.8	88.2
②	授業の内容が理解できている	82.5	82.0
③	人の話をしっかり聞いている	91.2	92.5
④	落ち着いた授業態度である	85.9	90.1
⑤	家庭学習は出されたものにきちんと取り組み、提出できている	78.5	80.8
⑥	予習や復習など、課題以外の学習に自ら進んで取り組んでいる	62.4	68.5
⑦	行事には進んで取り組んでいる	81.2	90.1
⑧	係活動・委員会活動を積極的に行っている	86.5	91.9
⑨	帰りの会の授業評価や美化評価を意識して生活している	75.8	84.5
⑩	自分のことが好きである	48.9	62.3
⑪	自分自身を振り返りながら生活をより良くしていこうとしている	78.5	85.8
⑫	班活動など対話を通して友達との人間関係づくりに取り組んでいる	81.8	88.8
⑬	地域の行事やボランティア活動に進んで関わろうとしている	63.0	77.7
⑭	自分の将来の夢や目標に向けて頑張っていることがある	71.1	77.7
⑮	自分の良いところを知っている	55.7	72.2
⑯	友達の良くないことは良くないと言える	67.1	79.0
⑰	困っている友達の手助けをしている	90.6	89.5
⑱	朝登校したときや、お客さんにあいさつできる	83.2	88.2
⑲	授業やそうじ始まりなどの時間を守っている	86.5	95.0
⑳	頭髪・服装・タスキなどのきまりを守っていますか	91.9	95.6
㉑	適切な言葉遣いをしている	79.1	82.7
(2) 生徒アンケート 先生は (そう思う・だいたいそう思う) %		1 学期	2 学期
①	授業でめあてや流れをわかりやすく示している	85.9	91.3
②	学習の内容をわかりやすく伝える工夫をしている	85.9	90.7
③	自分で考えたり、グループやペアで話し合う時間の確保をしている	87.2	92.5
④	家庭学習のねらいや取り組み方をわかりやすく教えてくれる	80.5	83.9
⑤	係活動・委員会の活動に積極的に関わっている	80.5	87.6
⑥	頑張ったときに、頑張りを認めてくれる	73.8	84.5
⑦	学活や道德などで、自分の意見を出す場や友達の見解を聞く場をたくさん作ってくれる	81.8	89.5
⑧	地域の行事やボランティア活動等の情報をくれる	72.4	77.7
⑨	将来のことや進路、学校生活の向上について、アドバイスをしてくれる	64.4	83.3
⑩	良くないことは良くないと注意してくれる	87.2	91.9
⑪	あいさつや時間、きまりについてしっかり指導してくれる	83.2	90.7
⑫	いじめ・悪口など、困っている生徒の相談に乗ってくれる	69.1	74.0
(3) 保護者アンケート 学校は (そう思う・だいたいそう思う) %		1 学期	2 学期
①	教育目標や経営方針をわかりやすく伝えている	69.2	71.4
②	わかりやすい授業をしている (子どもが授業がわかると言っている)	52.9	60.0
③	お子さんが落ち着いて授業できるよう指導をしている	52.9	61.9
④	生徒が家庭学習にしっかり取り組めるよう工夫をしている	43.5	45.7
⑤	生徒が相手の立場を尊重して互いに協力し合う関係を築くよう指導している	52.1	63.8
⑥	いじめや不登校などの問題に適切に対応している	36.7	48.5
⑦	学級担任は、家庭との連絡など意思の疎通を図る努力をするとともに、保護者がいつでも相談できる体制を整えている	61.5	65.7
⑧	校舎内の安全管理・安全指導が適切に行われている	49.5	66.6
⑨	校内の清掃が行き届き、教室をはじめ学校の施設・設備が整えられている	72.6	83.8
⑩	保護者会、授業参観、ホームページなど、学校を公開する努力をしている	82.9	86.6
⑪	学校職員は、適切な言葉遣いで生徒や保護者に対応している	77.7	84.7
(4) 保護者アンケート 家庭では (そう思う・だいたいそう思う) %		1 学期	2 学期
①	家庭学習に自主的に取り組むよう声をかけている	78.6	75.2
②	進路について相談にのってあげることがある	90.5	87.6
③	相手の立場を尊重して、互いに協力し合う関係を築くよう指導している	89.7	90.4
④	あいさつや学校の決まりを守るなど、基本的な生活習慣が身につくよう指導している	88.8	92.3
⑤	子どもに寄り添いながら、子どもの意見に耳を傾けるようにしている	93.1	91.4
⑥	学校や担任との連絡など、意思の疎通を図る努力をしている	65.8	70.4
⑦	親の願いを子どもにわかりやすく伝えている	81.1	83.8
⑧	子どもの健康管理、安全指導を適切に行っている	92.3	93.3
⑨	子どもの家庭での役割分担を決めて指導している	75.2	74.2
⑩	P T A 研修会、保護者会、授業参観などに参加している	63.2	59.0



令和7年度を終えるにあたって

寒い冬が過ぎ、桜の開花も間近な季節になりました。別れと出会いの季節である春の訪れを感じます。3月10日、北条中学校のリーダーとして活躍してくれた74名の3年生が卒業しました。また、令和7年度も本日修了式を迎え、1・2年生は本日をもってそれぞれの学年を修了しました。2年生は4月からは、最上級生としての責任と自覚をもって、また、自分自身の進路決定に向けて、更なる努力を期待しています。1年生は、4月からは先輩と呼ばれる立場になります。先輩としての自覚を持ち、後輩たちをより良く導いてくれる姿を楽しみにしています。



令和7年度 学校評価について



学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の委員の皆さんに、「めざす姿」「具体策」「検証結果」等の1年間の取組に対する自己評価や各種アンケート結果、学力検査等のデータを提示し、学校関係者評価をしていただきました。評価の内容をしっかりと受け止め教育活動に生かし、今後も確かな学校づくりに取り組んで参ります。今後とも支援の程よろしくお願ひします。

学校関係者評価報告書

評価日 令和8年3月13日

☆北条中学校区学校運営協議会委員

※敬称略

加藤晋彦・三村章雄・有福聡子・鯛天真由美・奥田よしの子・根鈴正則・山根雄一
山根ひろ子・徳山正輝・松尾大介・田中幸世・竹本幸子・小田信之・萬 章夫

1, 主体的・対話的に学び合い、考え、活動（表現）を深めていく授業づくりと学力向上

評価はA・B・Cの3段階

【自己評価】	中間（7月）	最終（12月）
1-1:基礎基本の定着と、思考力判断力表現力の伸長	78.2% B	82.4% A
1-2:関わり合いのある授業づくり	79.3% B	84.3% A
1-3:家庭学習の習慣確立	71.6% B	75.2% B

【学校所見と改善策】



○年間を通しては学習規律が身につけているが、生徒が授業に向かえるように継続して指導を行う。

○ICTを活用して、仲間と学び合う姿が多く見られるようになった。また、学び方を個別に選び、取り組む姿も見られるようになった。

△主体的に取り組める家庭学習とは何か、が課題。学校が出す課題という時点で主体的でなくなってしまうのではないか。家でもやってみたくなる課題に繋げる授業デザインを考えていく。

△生徒のアンケート結果と実情との乖離が感じられる。アンケート時期が重なるので、アンケートの取り方や精選が必要かもしれない。

△掲示してある授業への向かい方を確認して、授業のめあてに対して、自分が目的を持って取り組めるように啓発する。

⇒【学校関係者評価】 B おおむね満足できる

【学校運営への提言】

- ・生徒アンケートの結果をみると、学校で出された課題についてはしっかり提出しているようだ。ただ課題以外の学習に進んで取り組んでいる生徒をもう少し増やして欲しい。改善策であげられた取組をしっかり行って欲しい。
- ・「主体的に学ぶ姿勢」を今年度以上に育ててほしい。

2, 夢や目標を持ち、進んで粘り強く最後まで物事をやりきる態度の育成

評価はA・B・Cの3段階

【自己評価】	中間（7月）	最終（12月）
2-1:生徒の自治的・自主的な活動の充実	79.6% B	87.7% A
2-2:対話を通して育む、自ら考え、判断し行動する力の育成	71.1% B	80.3% A
2-3:キャリア学習の推進と進路指導の充実	70.2% B	80.9% A

【学校所見と改善策】



○生徒を中心に据えた学校行事や委員会活動を展開し、生徒の充実感や達成感につながった。

○コミュニティスクールも5年目となり、地域の人との関わりを増やすことができた。ボランティアへの参加昨年度より増加した。(昨年63人→今年80人) なかにわプロジェクト、大ト

ーク大会などのイベントでも、異学年との交流や大人と関わる機会となり、様々なことから生徒のコミュニケーションの力を伸ばすきっかけとなった。

○今年度、2年生の文化祭での『地域の素敵な大人との出会い』という発表や、1年生の総合的な学習での「職業調べ」で、地域で働く大人と出会うことで、自分のキャリアや自分たちの地域を見直すきっかけとなった。

○自己肯定感や自己有用感を高めるために、行事等での級友同士の評価をクラス内（いいところみつけ）にとどめることなく、学校や学年全体で評価する機会（掲示等）を設けた。また、学期末にクラスで頑張った人を認め合うアンケートの実施も行った。

△学年ごとの総合的な学習、キャリア教育の内容をより効果的なものにしていくよう検討した。

△本校は、自分に自信のない生徒が多く、「将来」や「仕事」に関するイメージが「お金」にだけ結びついている生徒が多いと感じる。

△今年度は教員の「ボイスシャワー」はなかなか浸透していなかった。行事の際、お互いに認め合う取り組みは多くあった。今後、普段の学校生活の中から生徒同士がお互いに認め合っていける活動を増やしていく必要がある。

⇒【学校関係者評価】 B おおむね満足できる

【学校運営への提言】

- ・キャリア教育を充実させ、子どもたちにはお金以外の価値を教える必要がある。
- ・地域の方々との出会いで、子どもたちは変わっていくので、学校現場で続けてほしい。
- ・アンケートの数値はまだまだかもしれないが、子どもたちは育っている。大人に向かう途中の道を歩いているな、自分を見つめ直しているな、と感じる。地域の方々に関わることで、たのしい子どもたちの成長が見えるので感謝している。
- ・将来のことや進路、学校生活向上についてのアンケート数値がアップしているので、大事にしてほしい。

3. 人権意識の醸成及び豊かな人間関係づくりといじめ・不登校の未然防止

評価は A・B・C の3段階

【自己評価】	評価は A・B・C の3段階	
	中間 (7月)	最終 (12月)
3-1: 違いを理解し、他者を尊重し合う意識の醸成	77.3% B	82.9% A
3-2: 基本的な生活習慣の確立	86.7% A	92.4% A
3-3: いじめ・不登校の未然防止・早期対応	69.5% B	74.2% B
3-4: 専門機関との連携による支援体制の充実	63.7% B	68.1% B

【学校所見と改善策】



○生徒の中にお互いを認め合って生活する意識が徐々に向上してきた。より仲間を認め合う意識の向上のために話し合いの場面の設定を増やしていきたい。良いことは良い、悪いことは悪いといえる雰囲気が見られるようになった。班活動を意識させたことが人間関係を深めることにつながったと考える。

○攻撃的な言葉の減少が見られた。攻撃的な言葉を発する生徒に対しては、個別に対応している。今後は集団としての成長を期待している。

○「なかにわプロジェクト」や「ありがとうメッセージ書き」などの企画・運営によって学年を越えての「関わる活動や伝える活動」の機会が増えた。

○生徒会執行部（委員会活動含む）の活動・呼びかけにより、ルールを守る・時間を守る・あいさつをするなど昨年度と比較してよくなってきた。

○月例アンケートや教育相談アンケートの実施（定期的）により早期発見につながった。教育相談等の充実を図り、個人相談・家庭連絡で解決に努めた。

○生徒支援委員会を週1回の頻度で開催した。参加者（教員・教育委員会・SSW・SC等）多面的な視点での意見を踏まえながらどう対応していくか対策ができた。

△生徒会発信を活用していく（人権意識・生活習慣）そこから、学校・学年・学級へと取り組むことが重要。

△生徒同士の友好的な人間関係を築くために道徳・学活の充実を図っていく。

△保護者に対しては、いつでも相談・連絡等してもらえるよう伝えていくことが必要である

⇒【学校関係者評価】 B おおむね満足できる

【学校運営への提言】

- ・保護者アンケート「いじめや不登校問題に対応について」評価が低い。該当生徒の保護者にはちゃんと伝わっているのではないか。その他の家庭には伝わっていないから、数値が低いのではないか。学校の対応をもっと保護者に伝えたいほうがよい。

○この1年間、保護者や地域の皆様に、ご理解ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。私たち教職員も、生徒たちの成長を振り返りながら、課題を明らかにし、その改善に向けて来年度も指導に当たりたいと考えております。来年度も引き続き、ご理解ご協力をお願いします。

家庭教育12か条
3月は
「家庭学習でしっかり復習」



北条中HP

Table with 7 main columns: 〇教育目標, 今年度の重点目標, 今年度の努力事項, 具体的な方策, 評価指標, 中間評価, 最終評価, 総合評価. The table is divided into four main sections (1-4) corresponding to different educational goals like '確かな学力育成', '豊かな人間性の育成', '健康な体づくり', and '地域とともある学校づくり'.

令和 7 年度

こども園評価

北条こども園 P1～3

大誠こども園 P4～6

由良こども園 P7～9

北栄町 教育・保育目標		『心身ともに健やかな子どもの育成』		町 めざす子どもの姿		①いきいきと遊ぶ子 ②思いやりのある子 ③最後まで取り組む子									
北条こども園 教育・保育目標		心豊かに たくましく しなやかに育ちあう園児の育成		園 めざす子どもの姿		①元気な子 ②進んで人とかわろうとする子 ③気づき・考える子									
現状	今年度の重点的に取り組む目標	めざす子どもの姿	評価項目	評価指標及び評価結果						総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等 (○成果 ●課題)	改善策 (取組の実際)			
				基準	取組指標	評価人数	取組結果	基準	成果指標				評価人数	成果結果	
①げんきぐんぐん	・体を動かすことが好きな子が多い ・食欲があり、食べることを楽しみにしている子が多いが、食べることに意欲の少ない子がある ・野菜等、苦手な食べ物がある子が多い ・噛む力が弱くなってきている ・箸を正しく持てない子が多い	体のリズムを整え、食に興味関心を広げる環境の工夫	体に関心をもち、喜んで食べる子	【教育課程・指導】 食を通して健康な心と体を育む環境と援助の工夫	4 3 2 1	4 3 2 1	7 22 5 0	3.1	4 3 2 1	4 22 4 0	8 22 4 0	3.1	B	○菜園活動を通し収穫した野菜を給食室で調理してもらったり、クッキングを通して野菜や食材への興味・関心が高まり、苦手だった食材にも挑戦しようとする姿が見られるようになったり、食への意欲が高まっている。クッキングの様子やレシピを家庭へ伝えることで、親子で楽しめる姿もあった。 ○栄養士や保育者に栄養の話聞くことで、健康にも関心が向きつつある。 ○低年齢児は、戸外でしっかり体を動かして遊んだり、保育教諭が「美味しいね」と一緒にたべたり、励ましたりすることで、食べることを喜んでいる。 ●偏食が強い、咀嚼や食事マナーが身につけにくい、朝食を十分食べていない等、個人差、家庭差が大きく連携の必要がある。	・本年度の取組を食育計画に盛り込み、計画的に取り組む。(菜園活動・クッキング・栄養指導) ・栄養士の話の聞いたり、絵本等を通して、食や健康への関心を高める機会を増やす。 ・家庭と園で子どもの様子を共有しながら、食の大切さを伝えていく。
②えがおきらきら	・人懐こく親しみをもって関わろうとする子が多い ・わらべ歌や集団遊びを楽しむ姿がある ・ごっこ遊び等友達とイメージを共有して遊ぶことを楽しんでいる ・友達との関わりが増えた分、思いが伝えられずトラブルになることも多い ・異年齢に関心はあるが、設定しないとかわり広がらない	身近な人とつながり、多様な感情体験を通して人と関わる喜びを育む為の環境と援助の工夫	互いに理解し合いながら一緒に遊ぶことを喜び子	【教育課程・指導】 人と関わる喜びを育むための環境と援助の工夫(研究推進)	4 3 2 1	4 3 2 1	8 19 7 0	3	4 3 2 1	4 18 7 0	9 18 7 0	3.1	B	○保育者が一人一人に寄り添うことで安心して自己発揮したり、好きな遊びをじっくり楽しむことを保障することで、自然と友達へと関心が向き関わる姿につながった。 ○鬼ごっこやドッジボール等の集団遊びを継続して取り組むことで自分たちで遊ぶを進めるようになった。葛藤場面を大事にすることで、順番を待つ、譲り合うなど自分たちで解決しようとする姿も見られるようになってきた。 ○ここにこタイムの異年齢交流を継続することで、相手の気持ちを考えながら関わろうとする姿が育っている。 ●安心して自分の思いを表出している反面、思いを強く主張してしまう子や、言葉で気持ちを伝えることが難しい子もおり、トラブルになる場面がまだまだある。	・葛藤場面を大切に、互いの思いを受け止めることで自分たちで解決しようとする力を育てていく。 ・ふわふわ言葉、ちくちく言葉について考える機会をもつ。 ・個々に解決して終わるだけでなく、クラスで話し合い、友達の思いに共感し合える関係性を築いていく。
③みんながわくわく	・身近な自然物に興味をもって関わろうとする姿がある。 ・花や虫の名前を調べることが楽しんでいる。 ・菜園活動を通して世話をしたり、収穫する喜びを味わっている。 ・自然に触れて遊ぶ経験が減り、経験不足な面もある。	身近な環境に興味関心を広げ主体的にかかわり、工夫したり試したりしてやり遂げる喜びを味わう為の環境の工夫	身近な環境に主体的にかかわり、好奇心・探求心をもって遊ぶ子	【教育課程・指導】 身近な自然に興味関心を広げる為の環境の工夫と、学びの芽生えの見取り	4 3 2 1	4 3 2 1	9 18 7 0	3.1	4 3 2 1	4 18 8 0	8 18 8 0	3	B	○草花やどんぐり等の自然物、砂、土に身近に触れる環境を整えたり、園児と一緒に試行錯誤しながら遊んだりすることで、色水や土の変化する様子、不思議さやおもしろさに気付き、遊びに取り入れる姿が見られるようになってきている。 ○青虫や自分たちで見つけた虫や生き物を、図鑑で調べながら飼育し観察することを楽しんだ。生き物への関心が高まっている。 ○保育教諭も、園児目線で一緒に自然に触れ共感することで、発見する喜びを味わっている。 ●身近な自然物で遊ぶ経験が少ない面もあり、自分たちで遊ぶを考えることが難しい姿もある。 ●生き物のへの興味はあるのは良いが、扱いが乱雑になることがある。	・園ならではの環境の良さを見直し、自然環境を意図的に整備していく。今年度の活動をまとめ、年間計画を作成する。 ・地域の専門家に来てもらい、保育者自身が自然や遊びの知識を深める。
特別支援教育	・個別の配慮を要する園児が増えている ・専門機関と連携し支援を行っている ・子育て親が多様化し、登園を渋る園児も増えている。 ・保護者への啓発や理解の難しさがある	園内支援体制を充実させ、職員で連携を図りながら、園児一人一人の発達や特性を理解し支援する。	園児一人一人が生活に見通しをもち、安心して生活する。	【特別支援教育】 園内支援体制の充実	4 3 2 1	4 3 2 1	14 17 3 0	3.3	4 3 2 1	4 17 7 0	9 17 7 0	3.1	A	○年齢や発達に応じた環境調整が進み、園児が落ち着いて生活できている。専門機関等で助言いただいたことをクラス・学年間で共有し、必要な配慮や支援が出来る。 ○個々のあるがままを受けとめたり、特性や好きな事を尊重してかかわることで、園児の安心感や笑顔が増えている。 ●登園を渋る園児が増えている。発達や特性、親子(愛着)関係等、対応が難しい場合があり、専門機関との連携が不可欠。支援方法に悩む場面がある。 ●自信が持てず、消極的な園児がある。	・支援を要する園児を中心に、一人一人の良さを認め合える集団づくり。 ・ケース検討会等を行い、悩みや支援方法を共有する体制づくり。 ・保護者へ研修等情報提供することで、早い段階から支援を進めていく。 ・月1回動画研修を導入し、職員の知識、支援力を高める。
地域に開かれた園づくり	・コミュニティスクール、あつまらいや北条等、地域団体とのつながりが出来つつある。 ・茶臼山等に出かけたり、農業体験をしたりし、地域の自然に触れて遊ぶことを楽しんでいる。 ・交流は良い機会となるが、1回だけでなく、継続出来るように。 ・未満児クラスの交流の機会が少ない。	地域の方の協力を得ながら、体験活動を広げる	園児は地域の自然や人に親しみを持ち、その良さを感じながら過ごしている	【地域社会との連携】 地域資源の活用	4 3 2 1	4 3 2 1	4 21 5 4	2.7	4 3 2 1	4 18 7 4	5 18 7 4	2.7	B	○幼稚部が中心になるが、あつまらいや北条、小中学生、高齢者との交流、読み聞かせ等幅広く交流する事が出来た。交流することを楽しみにし、親したしみをもって関わろうとする姿がある。 ○散歩に出かけて地域の人に声をかけられたり、小学生とフェンス越しに話したりし、何気ない関わりを大事にしたい。 ○竹や桜、田んぼ等、地域ならではの自然に触れ遊びに取り入れられたり、地域の方に教わり染物を楽しむことが出来た。 ●行事的な交流に偏り、日常的な地域のかかわりや継続が必要。小さい年齢では外出や交流の機会がなく地域と関わるのは難しい。 ●竹の確保や自然体験の継続が難しい。 ●保育者自身が地域資源や地域の人材、伝承遊び等もっと知りたい。	・園外保育先を広げ、図書館や住宅街等身近な地域探索を行う。 ・「こども園地域協力隊」等、継続して交流出来る方を募る。
子育て支援	・絵本が好きな園児が多い。 ・家読が定着してきたが、利用している家庭が固定化 ・携帯等時間を決めて使っている家庭が多いが、自由に使っている家庭もある。 ・メディアコントロールの取組が定着してきた。お手伝いカードを準備することで意欲的に取組む姿があった。	絵本を通して親子の触れ合いを楽しみ、子育てへの関心を高める	家庭で読み聞かせを楽しむ子	【子育て支援】 絵本を通して、子育て情報の発信と保護者支援	4 3 2 1	4 3 2 1	17 14 3 0	3.4	4 3 2 1	4 18 11 0	4 18 11 0	2.8	B	○絵本環境の充実を図った。(未満児絵本コーナー、図書館絵本コーナー、おすすめ絵本展示) ○読み聞かせを楽しみにしていたり、絵本を「読んで」と持ってきたりする園児が多く、絵本に親しみを持っている。 ○家読の貸出数が増えた。降園時、絵本を読んで帰られる姿が多くなった。 ○家庭への絵本リレーを楽しみにして待つ姿があった。 ●家庭により絵本のかかわり方に差があり、絵本袋を忘れてくる子が決まってきたり。家庭での読み聞かせ状況が把握しにくく、アンケート結果も上がらない。 ●メディア時間が多いと感じる家庭が増えている。	・保護者にも絵本の楽しさ、良さを伝える工夫(講演会、読み聞かせ会、たより) ・園児が絵本に親しんでいる様子を具体的に伝えていく。 ・図書館利用を広げ、親子で絵本に触れる機会をつくる。

令和7年度 学校関係者評価

園名	北栄町立北条こども園				
学校関係者評価日	令和8年2月19日				
評 定	項目 重点目標	げんき ぐんぐん (健康な体づくり)	えがお きらきら (豊かな人間性)	みんなが わくわく (学びの芽を育む)	子育て支援
	園自己評価	B	B	B	B
	関係者評価	A	A	A	B
	設定評価	A 十分達成(80%)B 概ね達成(60%)C 変化の兆しあり(40%)D まだ不十分(40%未満)			

	取組の成果と課題 ★重点○成果 ▼課題	評議員さんからのご意見*改善点
げんき ぐんぐん 健康な体づくり	<p>★食を通して健康な心と体を育む環境と援助の工夫</p> <p>○菜園活動を通し収穫した野菜を給食室で調理してもらったり、クッキングを通して野菜や食材への興味・関心が高まり、苦手だった食材にも挑戦しようとする姿が見られるようになったりし、食への意欲が高まっている。クッキングの様子やレシピを家庭へ伝えることで、親子で楽しめる姿もあった。</p> <p>○栄養士や保育者に栄養の話を聞くことで、健康にも関心が向きつつある。</p> <p>○低年齢児は、戸外でしっかり体を動かして遊んだり、保育教諭が「美味しいね」と一緒にたべたり、励ましたりすることで、食べることを喜んでいる。</p> <p>▼偏食が強い、咀嚼や食事マナーが身につけにくい、朝食を十分食べていない等、個人差がある。→食べてみようとする意欲を大切に、家庭へ食の大切さを伝えながら連携をとっていく。</p>	<p>・おにぎり弁当ひとつとっても、ただ食べるだけでなく、お家の人に作ってもらう嬉しさ、食の楽しさ等、たくさんの育ちがある。</p> <p>・自分たちで育てた野菜をクッキングして楽しんだりし、様々な経験が出来てよい。食べる事は体づくりの基本となる。引き続き食育に取り組んで欲しい。</p>
えがお きらきら 豊かな人間性	<p>★人と関わる喜びを育むための環境と援助の工夫</p> <p>○保育者が一人一人に寄り添うことで安心して自己発揮したり、好きな遊びをじっくり楽しむことを保障することで、自然と友達へと関心が向き関わる姿につながった。</p> <p>○鬼ごっこやドッジボール等の集団遊びを継続して取り組むことで、自分たちで遊びを進めるようになった。葛藤場面を大事にすることで、順番を待つ、譲り合うなど自分たちで解決しようとする姿も見られるようになってきた。</p> <p>○にこにこタイムの異年齢交流を継続することで、相手の気持ちを考えながら関わろうとする姿が育っている。</p> <p>▼安心して自分の思いを表出している反面、思いを強く主張してしまったり、言葉で気持ちを伝えることが難しい年齢でもあり、トラブルになる場面がまだある。→大事な学びの場ととらえ、丁寧に関わる保育者の姿勢共通理解していきたい。</p>	<p>・来園者に親しみをもち挨拶したり、一緒に遊ぼうと関りを求めたりする姿があり、人懐こい園児が多い。異年齢交流時、年長児が年少児に自然と優しくかかわる姿も見られている。参観の中で、安心して自己発揮しながら、人と関わる喜びを感じている姿がたくさん見られた。</p>
みんなが わくわく 学びの芽を育む	<p>★身近な自然に興味関心を広げるための環境の工夫と学びの芽生えの見取り</p> <p>○草花やどんぐり等の自然物、砂、土に身近に触れる環境を整えたり、園児と一緒に試行錯誤しながら遊んだりすることで、色水や土の変化する様子、不思議さやおもしろさに気づき、遊びに取り入れる姿が見られるようになってきている。</p> <p>○青虫や自分たちでつけた虫や生き物を、図鑑で調べながら飼育し観察することを楽しんだ。生き物への関心が高まっている。</p> <p>○保育教諭も、園児目線で一緒になって自然に触れ共感することで、発見する喜びを味わっている。</p> <p>▼身近な自然で遊ぶ経験が少なく、自分達で遊びを考えることが難しい。生き物のへの興味はあるのは良いが、扱いが乱雑になることがある。→園ならではの環境を生かした年間計画を作成し、遊びこめる環境をつくっていききたい。</p>	<p>・自分のやりたい事を自分で見つけいききと遊んでいる。</p> <p>・青虫の羽化を観察する場を設けることで、子ども達も興味津々で観察し感動して見ていた。引き続き、自然環境をととのえながら、子ども達の興味関心を高めていって欲しい。</p>
子育て 支援	<p>★絵本を通した子育て情報の発信と保護者支援</p> <p>○絵本環境の充実を図った。(未満児絵本コーナー、図書館絵本コーナー、おすすめ絵本展示)</p> <p>○読み聞かせを楽しみにしていたり、絵本を「読んで」と持ってきたりする園児が多く、絵本に親しみを持っている。</p> <p>○家読の貸出数が増えた。降園時、絵本を読んで帰られる姿が多くなった。</p> <p>○家庭への絵本リレーを楽しみにして待つ姿があった。</p> <p>●家庭により絵本のかかわり方に差がある。絵本袋を忘れてくる子もある。家庭での読み聞かせ時間のアンケート結果もあまり上がっていない。メディア時間が多いと感じる家庭が増えている。→絵本の良さ、楽しさを伝える工夫をしていきたい。</p>	<p>・小学校も家庭での読書時間が少なく、メディアやゲームの楽しさに流れがち。乳幼児期に親子で絵本を楽しむ習慣を作っておくことは大事。子どもの情緒安定にもつながるので、寝る前に1冊絵本を読んでもらえると良い。これからも絵本の良さを伝えていって欲しい。</p>



きらきら・ぐんぐん

R8・3・5(木)

北条こども園

文責 竹本 幸子

園長だより No.8

本日は参観日においていただきありがとうございました。子ども達の元気いっぱいな表情に、成長を感じられたことと思います。今年度も残りわずか、異年齢交流等お楽しみの時間をつくりながら、子どもたちの卒園、進級に向けて期待を高めていきたいと思ひます。

2月にこども園学校評議員会を開催し、職員による園自己評価、園評価に関わる保護者アンケートをもとに、評議員さんより指導助言をいただき、令和7年度園評価のまとめを行いましたので、報告いたします。次年度の園運営に活かしていきます。

令和7年度こども園評価

評 定	重点目標	げんき ぐんぐん (健康な体づくり)	えがお きらきら (豊かな人間性)	みんなが わくわく (学びの芽を育む)	子育て支援
	園自己評価	B	B	B	B
	関係者評価	A	A	A	B
	設定評価	A 十分達成 (80%) B 概ね達成 (60%) C 変化の兆しあり (40%) D まだ不十分 (40%未満)			

〇げんき ぐんぐん (健康な体づくり)

取組の成果と課題 ★重点 ○成果 ▼課題

★食を通して健康な心と体を育む環境と援助の工夫

○菜園活動を通し収穫した野菜を給食室で調理してもらったり、クッキングを通して野菜や食材への興味・関心が高まり、苦手だった食材にも挑戦しようとする姿が見られるようになったりし、食への意欲が高まっている。クッキングの様子やレシピを家庭へ伝えることで、親子で楽しめる姿もあった。

○栄養士や保育者に栄養の話聞くことで、健康にも関心が向きつつある。

○低年齢児は、戸外でしっかり体を動かして遊んだり、保育教諭が「美味しいね」と一緒にたべたり、励ましたりすることで、食べることを喜んでいる。

▼偏食が強い、咀嚼や食事マナーが身につけにくい、朝食を十分食べていない等、個人差がある。⇒ 食べてみようとする意欲を大切に、家庭へ食の大切さを伝えながら連携をとっていく。



評議員さんからのご意見

おにぎり弁当ひとつでもお家の人に作ってもらう嬉しさ、食の楽しさ等、たくさんの育ちがある。また、自分達で育てた野菜のクッキング等、様々な経験が出来てよい。食べる事は体づくりの基本となる。引き続き食育活動に取り組んで欲しい。

〇えがお きらきら (豊かな人間性)

取組の成果と課題 ★重点 ○成果 ▼課題

★人と関わる喜びを育むための環境と援助の工夫

○保育者が一人一人に寄り添うことで安心して自己発揮したり、好きな遊びをじっくり楽しむことを保障することで、自然と友達へと関心が向き関わる姿につながった。

○鬼ごっこやドッジボール等の集団遊びを継続して取り組むことで、自分たちで遊びを進めるようになった。葛藤場面を大事にすることで、順番を待つ、譲り合うなど自分たちで解決しようとする姿も見られるようになってきた。

○にこにこタイムの異年齢交流を継続することで、相手の気持ちを考えながら関わろうとする姿が育っている。

▼安心して自分の思いを表出している反面、思いを強く主張してしまったり、言葉で気持ちを伝えることが難しい年齢でもあり、トラブルになる場面がまだある。

⇒大事な学びの場ととらえ、丁寧に関わる保育者の姿勢を共通理解していきたい。



評議員さんからのご意見

・来園者に親しみを持ち挨拶したり、一緒に遊ぼうと関わりを求めたりする姿があり、人懐っこい園児が多い。異年齢交流時、年長児が年少児に自然と優しくかかわる姿も見られている。参観の中で、安心して自己発揮しながら、人と関わる喜びを感じている姿がたくさん見られた。

○みんなが わくわく (学びの芽を育む)

取組の成果と課題	★重点	○成果	▼課題
<p>★身近な自然に興味関心を広げるための環境の工夫と学びの芽生えの見取り</p> <p>○草花やどんぐり等の自然物、砂、土に身近に触れる環境を整えたり、園児と一緒に試行錯誤しながら遊んだりすることで、色水や土の変化する様子、不思議さやおもしろさに気づき、遊びに取り入れる姿が見られるようになってきている。</p> <p>○青虫や自分たちで見つけた虫や生き物を、図鑑で調べながら飼育し観察することを楽しんだ。生き物への関心が高まっている。</p> <p>○保育教諭も、園児目線で一緒になって自然に触れ共感することで、発見する喜びを味わっている。</p> <p>▼身近な自然で遊ぶ経験が少なく、自分達で遊びを考えることが難しい。生き物への興味はあるのは良いが、扱いが乱雑になることがある。⇒園ならではの環境を生かした年間計画を作成し、遊びこめる環境をつくってきたい。</p>			



評議員さんからのご意見

- ・自分のやりたい事を自分で見つけいきいきと遊んでいる。
- ・青虫の羽化を観察する場を設けることで、子ども達も興味津々で観察し感動して見ていた。引き続き、自然環境をととのえながら、子ども達の興味関心を高めていって欲しい。



○子育て支援

取組の成果と課題	★重点	○成果	▼課題
<p>★絵本を通じた子育て情報の発信と保護者支援</p> <p>○絵本環境の充実を図った。(未満児絵本コーナー、図書館絵本コーナー、おすすめ絵本展示)</p> <p>○読み聞かせを楽しみにしていたり、絵本を「読んで」と持ってきたりする園児が多く、絵本に親しみを持っている。</p> <p>○家読の貸出数が増えた。降園時、絵本を読んで帰られる姿が多くなった。</p> <p>○家庭への絵本リレーを楽しみにして待つ姿があった。</p> <p>●家庭により絵本のかかわり方に差がある。絵本袋を忘れてくる子もある。家庭での読み聞かせ時間のアンケート結果もあまり上がっていない。メディア時間が多いと感じる家庭が増えている。⇒絵本の良さ、楽しさを伝える工夫をしていきたい。</p>			



評議員さんからのご意見

- ・小学校も家庭での読書時間が少なく、メディアやゲームの楽しさに流れがち。乳幼児期に親子で絵本を楽しむ習慣を作っておくことは大事。子どもの情緒安定にもつながるので、寝る前に1冊絵本を読んでもらえるといい。これからも絵本の良さを伝えていって欲しい。



令和7年度評議員の皆様

- ・岡 裕一さん (元小学校教頭)
- ・副田幸男さん (あつまらいや北条会長)
- ・井上勝枝さん (元こども園長)
- ・大坂亮太さん (PTA 会長)
- ・濱家 功さん (北条小学校教頭)

※1年間お世話になり、ありがとうございました。



令和7年度 北栄町立大誠こども園 園評価

北栄町 教育・保育目標		『心身ともに健やかな子どもの育成』		町 めざす子どもの姿		①いきいきと遊ぶ子 ②最後まで取り組む子 ③思いやりのある子							
大誠こども園 教育・保育目標		心豊かに たくましく しなやかに育ちあう園児の育成		園 めざす子どもの姿		①多様な動きを楽しむ子 ②自分なりの言葉で伝え合うことを喜び子 ③いろいろなことに気付いたり考えたり試行錯誤したりしながら遊ぶ子							
現状	今年度の重点的に取り組む目標	めざす子どもの姿	評価項目	評価指標及び評価結果						総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等 (○成果 ●課題)	改善策 (取組の実際)	
				基準	取組指標	評価人数	取組結果	基準	成果指標				評価人数
① ちゃんじ	多様な動きを自ら挑戦する楽しさが感じられる保育	いろいろな体の動きや運動遊びを繰り返し楽しみ、体を動かす心地良さを感じている。	【教育課程・指導】 ・園児の多様な動きを引き出す遊びの環境の工夫と挑戦しようとする援助の工夫をする。	4	多様な動きを引き出す環境の再構成を行い、園児の変容を捉えた言葉かけや働きかけを行っている。	6	4	繰り返し多様な動きをやってみようと挑戦している子ども	10	3.4	A	○どの年齢も多様な動きを引き出す環境を取り入れた。園児が喜んで体を動かしたくなる曲や発達に合わせて動きを変化させたりすることで楽しんで繰り返し体を動かすようになった。 ○保育者も一緒に遊ぶことで子ども達の新たな興味や関心に繋がった。 ○異年齢と一緒に活動すると最後まで走ろうとする姿に繋がった。 ○サーキット遊びの運動教具の配置の工夫で様々な動きを引き出した。 ●多数で動くことが苦手な園児もいるので個別に安心できる環境も必要 ●裏園庭の遊びが限られる。時間も広さも。 ●すぐに疲れたという子がある。	・園児の選択肢が増える環境設定 ・異年齢チャレンジタイムの継続 ・様々な運動遊具を経験できるように活動内容や時間を共有し他学年でも利用しやすいようにする。
				3	多様な動きを引き出す環境を整え、意欲的に取り組めるような言葉かけや働きかけを行っている	18	3	60%以上	14				
				2	発達に応じた多様な動きができるよう保育環境を整え、一人一人に応じた言葉かけを行っている。	1	2	40%以上	1				
				1	体を使った遊びを保育に取り入れ、一人一人の園児の実態を捉えている。	0	1	40%未満	0				
② にじ	自分の思いや考えを言葉などで伝える喜びが感じられる保育	保育者や友達に自分の経験したことや考え・思いを、自分なりの言葉で伝えたり、相手の話を関心をもって聞くこととしている。	【教育課程・指導】 ・園児が自分なりの言葉等で、考えたことや思いを伝えたり、保育教諭の話や友達の話や援助の工夫をする。	4	保育者と子ども、子ども同士等対話をする時間を積極的にもち保育にかした。	4	4	自分から進んで、保育者や友達に、自分の考えや思いを言葉等で伝えたり聞こうとしていた。	5	3.1	B	○活動後の振り返りや帰りの会等自分の考えや思いを話す時間を日常的に設けたことで自分の思いを伝えられるようになった。 ○少人数(隣の友達)同士で休日のことなど話す機会を持ったことで相手に伝えたり聞こうとする姿につながった。 ○保育教諭の仲立ちで自分の思いを伝えようとするようになってきた。ままごと遊びを通して友達同士のやり取りが増えた。 ○保育教諭が、表情・仕草等言葉にできない思いを受け止め共感や仲立ちすることで安心して話す姿につながった。 ●自分の思いは、伝えるが、相手の話を聞く場面になると聞いていない姿もある。	・話してわからせようとしてせう園児が、聞くことの大切さを感じる方法の工夫しながら繰り返す。 ・聞くための環境の工夫
				3	子どもの考えを聞いてそれを保育に取り入れ、保育の見直しを行っている	17	3	保育者や友達に、自分の考えや思いを言葉などで伝えながら遊びを進めている	16				
				2	保育者は、子どもの思いや考えに関心を示し、共感したり質問をしたりしながら興味をもって話を聴いている。	4	2	保育者や友達に、自分の感じたことやしたことを、言葉や仕草で伝えようとしている。	3				
				1	子どもと会話等をするとき、目線を合わせ顔向き、最後まで話を聴いている。	0	1	保育者からの問いかけを聞いて、反応を返している。(うなづき、目線)	0				
③ わくわく	子どもの主体性を尊重にした保育の展開	身近な環境に自ら働きかけ色々なことに気付いたり考えたりして遊んでいる。	【教育課程・指導】 ・園児が、見たり触れたり試したりして繰り返し遊べるような環境や教材を園児と共に工夫する。	4	活動の状況に応じて教材等を園児と共に考えたり願いを読み取り環境の再構成をしている。	3	4	いろいろなことに気付いたり考えたり試行錯誤したりしながら遊んでいる	3	3.1	B	○園児が、興味のあることを題材に環境の工夫をすることで遊びの継続に繋がった。継続することで遊びの発展や友達との関わりも増え遊びが、充実していた。 ○園児の思いを大切に選べる環境や手の届く場所に好きな玩具や興味のあるものを設置することで園児が、自由に手に取り試して遊ぶ姿につながっていた。 ○園児の好きな遊びをコーナーに設置し子ども同士でやりとりして遊ぶ姿につながった。 ○園児が選んだ色で描くなど自己決定を大事にした。 ●試行錯誤できる環境づくり●保育教諭の意図で展開しがち、園児の声を取り入れたい。	制作活動や異年齢活動の充実(計画的に) ・主体的に遊びができる時間を設定しコーナー遊びの充実を図る。
				3	園児の発想や願いを受け止め、それを表現できるように教材や環境を工夫している。	20	3	身近なものと関わって遊びながら、いろいろなことに気付いたり考えたりしている。	21				
				2	園児とともに遊びを決めたり遊びの準備をすすめている。	2	2	自分で素材等を選んで遊んでいる。	1				
				1	園児の興味関心に合わせた教材等を準備している。	0	1	自ら用意された素材に興味を持ち遊んでいる。	0				
小学校との連携・接続	幼児期の学びと育ちの理解推進	保育教諭が、幼児期の学びについて理解し、園児の姿を多面的に理解している。	【研修】 ・園児の学びを、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして捉え幼児理解を深める。	4	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について記録したものを基に、他の職員と話し合い幼児理解が深まった。	6	4	月の振り返りの中で、園児の学びや育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らして考えるようになった。	3	2.8	B	○公開保育、要請訪問など階層別研修を重ねたことで「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」への理解を深め、職員間で共通認識をもって子どもの育ちを捉え、指導計画や保育実践・記録や環境構成に活かすことができた。 ○幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を視点に評価・反省をするなど記録に活用できるようになった。 ●クラス内で園児の話をしながら、10の姿に照らし合わせて話す時間がなかった。	・職員同士で保育の振り返りができる時間を日常的に作っていく。(週1回) ・ドキュメンテーションを活用してクラスで話し合う(週1程度)
				3	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連付けて記録にとった。(月1)	9	3	園児の遊びの姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連付けながら見取り説明できる。	14				
				2	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関連付けて、園児の育ちを見取った。	10	2	園児の遊びの姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連付けながら見取ることができた。	7				
				1	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について学んだ。	0	1	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解している。	0				
特別支援教育	園児が安心して生活や遊びを進められる園内環境の充実	どの園児にとっても分かりやすい環境が整えられている。	【特別支援教育】 ・基礎的環境整備の充実を図り保護者と共有する。	4	クラスの園児の実態に合わせて基礎的環境整備を整え保護者と共有した。	11	4	園で行っている基礎的環境整備を保護者と共有し家庭でも試してみようとしていた。	6	3.4	A	○個々の実態に応じた支援の工夫ができた。研修や支援の工夫をする時間が増えスキルアップにつながった。 ○懇談やお便りを配信、掲示し保護者に発達の見通しを知らせ援助の方法を丁寧に伝えることで家からも取組もうとする姿につながった。 ○園内委員会が定期的にあることで全園児の様子が、把握でき多面的に他クラスの園児もみることが出来た。 ○専門機関の助言をクラスで共有し基礎的環境整備や支援に活かされた。 ●保護者と共有できたが、実際に家での取組までは、難しいと感じた。	・保護者への発信の工夫 ・行事まえにストラテジーシートの活用を図る。
				3	クラスの園児の実態に合わせて基礎的環境整備を整えた。	13	3	園内全体で、基礎的環境整備が整っている。	16				
				2	クラスで行っている基礎的環境整備について見直しを行った。	1	2	クラスの園児の実態を踏まえて基礎的環境整備について評価し、改善に努めている。	3				
				1	クラスで行っている基礎的環境整備について話し合った。	0	1	クラスで基礎的環境整備を行っている。	0				
地域に開かれた園づくり	地域資源の活用	園児は地域の自然や人に親しみを感じたり、その良さを感じながら過ごしている。	地域資源を活用した取組を進める。	4	地域資源に関する情報収集を行い、保育活動に活かした。	6	4	地域資源の活用について考え、指導計画に位置付けた。	5	2.9	B	○体験活動でお世話になった方を招いて会食をする等循環型の交流になっている。園児が、より親しみや感謝の気持ちを持つようになった。 ○園外保育に出かけ瀬戸の集落を歩き、瀬戸神社・金毘羅山など地域の資源に触れ、地域に愛着を持つようになった。 ○地域の人に散歩で出会い挨拶をしたり、声をかけて下さる機会があり、真似て挨拶する等親しみを持つようになった。 ●保育部は、地域の方との交流が少ない。交流活動が、5歳児に偏りがある。	・お散歩マップの活用 ・地域の人の得意を活かして交流する機会を持つ(焼き芋・木工・生き物を捕まえる等自然体験)
				3	地域の方に参画していただきながら、体験活動や交流活動を行った。	13	3	地域(自然・人)の力を得て、園児の豊かな体験や取組に繋がった。	14				
				2	地域資源を活用した遊びを積極的に取り入れた。	5	2	園児は、地域の自然に関心を持ったり、地域の方に親しみを持っていたりしていた。	5				
				1	散歩に出かけたりして、積極的に地域の自然に触れたり、地域の方とあいさつを交わした。	1	1	地域の自然に親しんだり、地域の方との交流を楽しんだ。	1				

【総括評価基準】
A:十分達成 平均3.2以上
B:概ね達成 平均2.4以上
C:変化の兆しあり 平均1.6以上

令和7年度学校関係者評価書

園名	北栄町町立大誠こども園			
学校関係者評価日	令和8年2月17日			
評定	めざす子ども像	いきいきと遊ぶ子	思いやりのある子	さいごまで取り組む子
	重点目標	ちやれんじ 健やかな心と体づくり	にこにこ 心育て	わくわく 学びの芽を育む
	園自己評価	A	B	B
	関係者評価	A	B	B
	(評定内容)	A十分達成(80%以上)・B達成(80~60%)Cもう少し(60~40%)D不十分(40%以下)		

取組の○成果と●課題		☆R7重点めざす子ども像	・意見*園より
ちやれんじ (健やかな心と体)	<p>☆多様な体の動きを楽しむ子</p> <p>○年齢や園児の興味に応じた体を動かす遊びと環境の工夫により、園児が楽しみながら様々な動きに挑戦し、自信を持って意欲的に体を動かす姿が、見られるようになった。</p> <p>○異年齢での活動の継続により意欲的に取り組む姿に繋がった。</p> <p>●多数で動くことが、苦手な園児もあるので個別に安心できる環境の工夫が必要</p> <p>●すぐに疲れたという子がある。</p> <p>・身の回りのことを自分でしようとする子</p> <p>○保護者と共有に努めた。クラス便り等で具体的に発達の見通しと援助方法を伝えた。</p> <p>○保護者アンケート結果では、身の回りのことを自分でする園児が、昨年度より増加。 R6 82.9%⇒R7 92.4%</p>	☆R7重点めざす子ども像	<p>・毎日継続することで持久力がつくのでチャレンジタイムを継続してほしい。・保育者も一緒に楽しんでいることで園児の喜びや励みに繋がっている。</p> <p>・身の回りのことを自分でしようとする子は、昨年度よりアンケート結果に増加が見られた。引き続き保護者と共有しながら進めていきたい。</p>
にこにこ (心育て)	<p>☆伝えあうことを喜ぶ子(研究推進2年次)</p> <p>○保育教諭が、園児の思いを受け止め代弁したり、振り返りの時間や遊びの中で言葉のやりとりを丁寧に支えたことで、子どもが安心して自分の気持ちを言葉で伝えようとする姿が、見られるようになった。</p> <p>●自分の思いは、伝えるが、相手の話を聞く場面になると聞いていない姿もある。</p> <p>・自分の良さや友達の良さがわかる子</p> <p>○発表会・運動会では、自分なりの表現を堂々と演じる姿があった。ありのままの自分を友達に認められ安心した集団作りが土台となっている。</p> <p>○ふわふわ言葉・チクチク言葉について考える機会を持ち繰り返すうちに少しづつ優しい声掛けもするようになっていく。●感情が高ぶると暴言・暴力で伝える姿がある。</p>	☆R7重点めざす子ども像	<p>○親子読書推進以外の親子のコミュニケーションを図る取組としての啓発は?「団らんのない所に言葉は、育たない」という言葉を保護者にも伝え親子の対話を増やす取組をお願いしたい。</p> <p>*親子読書以外の啓発は、弱いのので今後取組を工夫したい。</p>
わくわく (学びの芽)	<p>☆色々なことに気付いたり考えたり試行錯誤して遊ぶ子</p> <p>○園児の興味や発想を大切に環境構成と継続的なかわりにより、自分で遊びを工夫しながら友達と関わって意欲的に遊びを広げる姿が、見られるようになった。</p> <p>●与えられたことには、取組むが、自由な発想になると作れなかったりする。身近な場所に試行錯誤できる環境が必要。</p> <p>・身近な自然を大切に使う子</p> <p>○玄関等送迎時生き物を見たり触れたりする環境を工夫した。写真や説明等、園児の関心や親しみを引き出し保護者とも送迎時に対話が生まれていた。</p> <p>○保護者アンケート結果 身近な自然興味を持ち触れたり関わろうとしたりしている園児が、100%と肯定的な評価であった。</p>	☆R7重点めざす子ども像	<p>○園児の良い動きには、認める言葉かけをしてほしい。</p> <p>どんな力を育てたいかねらいをもって取り組んでほしい。</p> <p>見本を示す、アドバイスする、ほめることで達成される</p> <p>*しようとする意欲を大切にしながら丁寧に見とり保育をしていきたい。</p>
開かれた園づくり	<p>☆特別支援教育</p> <p>○基礎的環境整備を個々の実態に合わせて実施。園内委員会を定期的に実施。支援全体の園児の様子を把握でき、多面的な見取りに繋がっている。</p> <p>☆小学校との連携・接続「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を指導計画・実践記録に活かすことができるようになってきている。</p> <p>○こ小合同研修会(5歳児公開保育)を実施。小学校の先生と活発に意見交換できた。</p> <p>●学校・地域にも10の姿を視点に分かりやすく発信する力をつけていきたい。</p> <p>☆地域・保護者連携</p> <p>○散歩で出会う地域の方に声をかけられたり、園児が挨拶をすることで地域の人に親しみや感謝の気持ちが育ってきている。</p> <p>○地域の方と会食、高校生と触れ合う等人との交流を楽しむことができた。</p> <p>○「あいほん」の取組・親子読書推進を・40%⇒55%の貸出率。少しづつ定着。今後も継続。○保護者研修の参加率6割へ増加。</p> <p>●保護者との園の様子を伝える情報共有回数や内容に改善を求める声がある。</p>	☆R7重点めざす子ども像	<p>○特別支援の取組について今後も園でできる支援について保護者に情報提供をし保護者に寄り添った支援をしてほしい。</p> <p>○多くの人に会うことで大きく成長する。今後も地域とのつながりを臨む。</p> <p>○保護者アンケートについて園全体だけでなく、年齢別に見てみることで見えてくるものがあるのではないか。</p> <p>*年齢別の傾向の把握の為に改善していきたい。</p>

てくてく いっぽ!

たいせいこども園 園長便り№.11 2026.2.26・小野塚奈津子

子どもたちの小さなチャレンジ「いっぽ」を見つけ応援するお便り

～コミュニケーション力を育てよう・団らんのある所に言葉が育つ～

雪も解け、花壇にちゅうりっぷの芽が、元気に顔を出しています。先日のたくさんの積雪の下でも、たくましく雪解けを待っていたと思うと、とても嬉しい気持ちになります。春が、近づいていますね。

さて、今年度もあと1ヶ月になりました。子ども達も遊びや生活の中でたくさんの経験を通して心も体もたくましくなってきたなど成長を感じる場面が多くなりました。園に来客が、あると自分から「こんにちは!」とあいさつをしたり、小さいクラスの子も達は、「タッチ」と親しみをもって近づいてみたり、人への信頼感が育ち、安心して人に関わろうとする姿が、見られるようになりました。帰りのあいさつは、特に元気に「さようなら!」と言う園児も増えましたね。お家の人に会えた嬉しさの表れでしょう。園で友達や多様な人と出会い、社会性が育っていること実感しています。

そんな中、一つ気になる姿があります。近年、集団でのルールがなかなか入りにくいお子さんが多くなったと感じています。個々が好きなユウチュウブなどで知り得た情報(価値観)をそのまま集団の場で真似て活用している姿です。善悪が身についていく時期に間違った価値観を学んでいるようですが、何から学んだのかわかりにくい時代になりました。ぜひ、保護者の皆さんには、お子さんが、どんな番組を見ているのかわかり、一緒に見るなどして対話を大事にさせていただきたいと思います。お子さんが、どんなことを感じ、何を面白がっているのか、対話をしながら共感したり、不適切な言動には、「私は、そんな言葉は、嫌な気持ちになるから使ってほしくないな」とか「こういう言い方がいいよ」など別の方法を教えるなどの関わりを伝えていただけないでしょうか。成長過程なので面白がって使ってみたくなることもあります。過剰に反応しないことも大事ですが、不適切な言動が続く時は、園と家庭の連携を密にしながら対応を一緒にしていくことが、落ち着いていく近道です。今一度ご家庭での対話が生まれる工夫をお願いしたいと思います。また、気になることがありましたら遠慮なく担任までお知らせ下さい。一緒になって考えていきたいと思っています。

3月6日は、今年度最後の参観日です。ぜひ、お子さんの様子を参観いただき成長を感じていただければと思います。PTA 期末総会もあります。ご都合をつけて参加下さいますようお願いいたします。

お待ちしております。

☆地域の方の支えられて

○食育の話 2/20 北栄町で食育活動をされている・ハイジグループの皆さんにエプロンシアターを使って食べ物がお腹の中を通り消化していく様子や働きを教えてもらいました。

また、「バナナうんち」の絵本を題材に食べ物と体の関係も教えてもらい、興味をもって見ていました。自分の体に関心をもつことは、健康への第一歩です。「バナナうんちに会って見たいです」と感想を伝える園児もありましたよ。ご家庭でもお話を聞いてみてくださいね。バナナうんちに出会えますように♡

○西園の中村さんより広告紙で作った箱をいただきました。3年以上前から届けてくださっているようです。

子ども達のことを思い作ってくださる温かいお心遣いに感謝申し上げます。

・子ども達の製作時やおやつ時の入れ物として使用させていただいています。

○第2回評議員会を実施(2/17) 添付しますのでご確認下さい。

本園の運営についてご助言をいただいている園評議員の皆様をご紹介します。

- ・福井 和栄様(元大栄小学校長) ・徳永 正樹様(大栄小学校教頭)・山本 真生様(PTA 保護者会長)
- ・田中 英伸様(シルバー人材センター事務局長)・倉本 恵美様(社会福祉協議会介護支援課長)



令和7年度学校関係者評価書

園名	北栄町町立大誠こども園			
学校関係者評価日	令和8年2月17日			
評定	めざす子ども像	いきいきと遊ぶ子	思いやりのある子	さいごまで取り組む子
	重点目標	ちゃれんじ 健やかな心と体づくり	にこにこ 心育て	わくわく 学びの芽を育む
	園自己評価	A	B	B
	関係者評価	A	B	B
	(評定内容)	A十分達成(80%以上)・B達成(80~60%)Cもう少し(60~40%)D不十分(40%以下)		

取組の○成果と●課題		☆R7重点めざす子ども像	・意見*園より
ちゃれんじ(健やかな心と体)	<p>☆多様な体の動きを楽しむ子</p> <p>○年齢や園児の興味に応じた体を動かす遊びと環境の工夫により、園児が楽しみながら様々な動きに挑戦し、自信を持って意欲的に体を動かす姿が、見られるようになった。</p> <p>○異年齢での活動の継続により意欲的に取り組む姿に繋がった。</p> <p>●多数で動くことが、苦手な園児もあるので個別に安心できる環境の工夫が必要</p> <p>●すぐに疲れたという子がある。</p> <p>・身の回りのことを自分でしようとする子</p> <p>○保護者と共有に努めた。クラス便り等で具体的に発達の見通しと援助方法を伝えた。</p> <p>○保護者アンケート結果では、身の回りのことを自分でする園児が、昨年度より増加。 R6 82.9%⇒R7 92.4%</p>	☆R7重点めざす子ども像	<p>・毎日継続することで持久力がつくのでチャレンジタイムを継続してほしい。・保育者も一緒に楽しんでいることで園児の喜びや励みに繋がっている。</p> <p>・身の回りのことを自分でしようとする子は、昨年度よりアンケート結果に増加が見られた。引き続き保護者と共有しながら進めていきたい。</p>
にこにこ(心育て)	<p>☆伝えあうことを喜ぶ子(研究推進2年次)</p> <p>○保育教諭が、園児の思いを受け止め代弁したり、振り返りの時間や遊びの中で言葉のやりとりを丁寧に支えたことで、子どもが安心して自分の気持ちを言葉で伝えようとする姿が、見られるようになった。</p> <p>●自分の思いは、伝えるが、相手の話を聞く場面になると聞いていない姿もある。</p> <p>・自分の良さや友達の良さがわかる子</p> <p>○発表会・運動会では、自分なりの表現を堂々と演じる姿があった。ありのままの自分を友達に認められ安心した集団作りが土台となっている。</p> <p>○ふわふわ言葉・チクチク言葉について考える機会を持ち繰り返すうちに少しづつ優しい声掛けもするようになっていく。●感情が高ぶると暴言・暴力で伝える姿がある。</p>	☆R7重点めざす子ども像	<p>○親子読書推進以外の親子のコミュニケーションを図る取組としての啓発は?「団らんのない所に言葉は、育たない」という言葉を保護者にも伝え親子の対話を増やす取組をお願いしたい。</p> <p>*親子読書以外の啓発は、弱いのので今後取組を工夫したい。</p>
わくわく(学びの芽)	<p>☆色々なことに気付いたり考えたり試行錯誤して遊ぶ子</p> <p>○園児の興味や発想を大切に環境構成と継続的なかわりにより、自分で遊びを工夫しながら友達と関わって意欲的に遊びを広げる姿が、見られるようになった。</p> <p>●与えられたことには、取組むが、自由な発想になると作れなかったりする。身近な場所に試行錯誤できる環境が必要。</p> <p>・身近な自然を大切に使う子</p> <p>○玄関等送迎時生き物を見たり触れたりする環境を工夫した。写真や説明等、園児の関心や親しみを引き出し保護者とも送迎時に対話が生まれていた。</p> <p>○保護者アンケート結果 身近な自然興味を持ち触れたり関わろうとしたりしている園児が、100%と肯定的な評価であった。</p>	☆R7重点めざす子ども像	<p>○園児の良い動きには、認める言葉かけをしてほしい。</p> <p>どんな力を育てたいかねらいをもって取り組んでほしい。</p> <p>見本を示す、アドバイスする、ほめることで達成される</p> <p>*しようとする意欲を大切にしながら丁寧に見とり保育をしていきたい。</p>
開かれた園づくり	<p>☆特別支援教育</p> <p>○基礎的環境整備を個々の実態に合わせて実施。園内委員会を定期的実施。支援全体の園児の様子を把握でき、多面的な見取りに繋がっている。</p> <p>☆小学校との連携・接続「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を指導計画・実践記録に活かすことができるようになってきている。</p> <p>○こ小合同研修会(5歳児公開保育)を実施。小学校の先生と活発に意見交換できた。</p> <p>●学校・地域にも10の姿を視点に分かりやすく発信する力をつけていきたい。</p> <p>☆地域・保護者連携</p> <p>○散歩で出会う地域の方に声をかけられたり、園児が挨拶をすることで地域の人に親しみや感謝の気持ちが育ってきている。</p> <p>○地域の方と会食、高校生と触れ合う等人との交流を楽しむことができた。</p> <p>○「あいほん」の取組・親子読書推進を・40%⇒55%の貸出率。少しづつ定着。今後も継続。○保護者研修の参加率6割へ増加。</p> <p>●保護者との園の様子を伝える情報共有回数や内容に改善を求める声がある。</p>	☆R7重点めざす子ども像	<p>○特別支援の取組について今後も園でできる支援について保護者に情報提供をし保護者に寄り添った支援をしてほしい。</p> <p>○多くの人に会うことで大きく成長する。今後も地域とのつながりを臨む。</p> <p>○保護者アンケートについて園全体だけでなく、年齢別に見てみることで見えてくるものがあるのではないか。</p> <p>*年齢別の傾向の把握の為に改善していきたい。</p>

令和7年度 北栄町立由良こども園 園評価

北栄町 教育・保育目標		『心身ともに健やかな子どもの育成』		町 めざす子どもの姿		①いきいきと遊ぶ子 ②最後まで取り組む子 ③思いやりのある子								
由良こども園 教育・保育目標		自分の力を発揮し、仲間とともに育ちあう園児の育成		園 めざす子どもの姿		①【えがお】夢中になって遊ぶ子 ②【げんき】自分なりにチャレンジする子 ③【ななかま】思いを伝え合う仲間								
現状	今年度の重点的に取り組む目標	めざす子どもの姿	評価項目	評価指標及び評価結果						総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等 (○成果 ●課題)	改善策 (取組の実際)		
				基準	取組指標	評価人数	取組結果	基準	成果指標				評価人数	成果結果
①えがお	・身近な自然物や生き物に興味を持ち、観察したり、気付いたことを友達と伝え合ったりする姿がある。 ・季節の自然物は時期を逃さず、興味関心を持てるようにしたことで、園児は5感を通して様々なことを感じたり気付いたりした。 ▲畑が遠く栽培物が園児の目に届きにくい。 ▲職員自身が環境(自然)の知識が薄い。	身近な環境(自然)に関する活動の充実	【教育課程・指導】 身近な環境(自然)に親しみ、様々な事象に興味関心を広げる環境の工夫	4	園児が好奇心や探求心をもって主体的に遊びを楽しめるような環境を工夫している。	8	3.2	4	様々な環境(自然)に好奇心や探求心をもって遊ぶ子 80%以上	13	3.4	A (3.3)	○身近なものを教材として取り入れる際、そのもの持つ性質(大きさ、色、音、硬さ、温度、変化など)を保育教諭が意識して教材として用意することで、様々な要素が園児の心を刺激し、好奇心や探求心を持つ姿に繋がっていた。 ○植物や生き物や昆虫等を園児の身近に置き、いつでも観察できたり飼育できたりする環境を整えたクラスが増えた。 ○図鑑や写真、探検カードを用意しておくことで、見つけたものを比べたり、違いに気付いたり、他の植物・生き物にも関心を持っていた。 ○職員研修で、職員自身が園周辺の自然物・生き物を知ることができた。 ○園児の発見、工夫などを受け止め、「どうやったの?」「どうなると思う?」等と問いかけることで考えたり仮定を立てたりする姿がある。 ●園児の興味関心から、試行錯誤や探求する姿に繋がる環境や援助について深めていく。	子どもの発見を面白がりながら言語化し、試行錯誤できる環境や時間を保障する。
②げんき	・ゆらっこタイムの定着 ▲サーキットのバリエーションを増やす。 ・楽しみながら体を動かしたり自分なりに目標をもって挑戦しようとする園児が増えた。 ▲体の動きに不器用さのある園児への支援や環境の工夫が必要	繰り返し体を動かして遊ぶ楽しさが感じられる環境と援助の工夫	【教育課程・指導】 自分なりに目標を持ち、体を動かして遊ぶことを楽しめる環境と援助の工夫	4	園児が主体的に繰り返し体を動かして遊ぶよう環境の再構成を行い、園児の変容を捉えた言葉かけや働きかけを行っている	7	3.1	4	繰り返し体を動かす遊びを楽しんでいる子 80%以上	12	3.4	A (3.3)	○ゆらっこタイムではいろいろな運動遊びを計画し実施できた。選べる・楽しい雰囲気の中で体を動かせる環境が良かった。園児は様々な運動遊びに興味を持ち意欲的に取り組めた。また、異年齢で取り組むことで、年上の友達から遊び方を学んだり、刺激を受けてやってみようとする意欲に繋がった。 ○1つのコーナーでも難易度を替え園児が選択できる環境を用意したり、その子の実態に応じた援助を行ったりしたことで、運動が苦手な園児も「やったらできた」という満足感が次に繋がった。 ○友達と一緒に楽しく体を動かして遊ぶ経験が積み重なっている。 ○生活全般の動作を体の動きと捉え、動作を言語化しながら関わることで、幼児期に経験させたい様々な動きが経験できた。 ●年齢ごとで経験させたい動き・運動遊びも、計画的に取り入れていく。	経験させたい動きを、生活や遊びの中に取り入れ楽しんで取り組めるようにする。 保護者と園児が関わりながら楽しめる遊びを、参観日等で共に楽しめるようにする。
③ななかま	・感じたことや考えたこと、自分の思いを、自分なりの言葉(表情・仕草)で伝えられるようになっていく。 ・友達の思いに寄り添ったり優しい言葉をかけたりする姿が見られる。 ▲人の話を最後まで聞く力が課題 ▲自分の思いは伝えられるが、折り合いをつけることが難しい。	自分の思いや考えを言葉(動作・表情)などで伝える喜びが感じられる保育	【教育課程・指導】 ・園児が自分なりの言葉(動作・表情)で、思いを伝える喜びが感じられるような援助や環境の構成を行う。	4	園児が友達や保育者に自分の思いや考えを伝え合いながら生活や遊びが展開できるように工夫している	9	3.2	4	保育者や友達に、自分の経験したことや考え・思いを、自分なりの言葉(動作・表情)で伝え合う喜びを感じている子 80%以上	7	3.1	A (3.2)	○遊びの中で、自分が気付いたことや思ったことを自分なりの言葉で保育者や友達に伝えていく。友達と遊ぶ中で、友達の考えを聞きながら遊びを進める姿が少しずつ育ってきている。 ○職員は、園児の考えを聞くこと・分かろうとするなど子どもの意見を尊重しながら関わることを意識するようになってきた。低年齢児では、指さしや、身振り等で伝えようとする児の思いを受け止めて言葉で返していくようにしたことで、園児自らの発信が増えた。 ○描画活動や、お話の絵の聞き取りの中で、聞いてもらって嬉しい時間となっている。取り組み方の工夫をしながら継続していきたい。 ●友達との関わりの中で一方的な主張をし、相手の考えと折り合いをつけながら遊びを進めることが難しい姿がある。保育教諭が園児の思いを言葉にして受け止めながら、相手の思いに気付けるような仲立ちが引き続き必要。	・トラブル時は、保育者の判断で解決することを急がず、園児の思いを聞きながら言葉にし、相手の思いにも気付けるよう働きかけていく(発達段階を意識しながら) ・保育者がモデルとなるようプラスの言葉かけを意識する。
子育て支援	・絵本貸し出しは木曜日に実施しているが、家庭で絵本を読んでもらっているかの実態把握が必要 ・園で絵本を自由に借りることのできる場が保護者に好評。 ・家庭によって、本に親しむ環境に差がある。 ・絵本好きの園児が多い。	絵本との関わりに関する調査 絵本との関わりについての家庭啓発	【子育て支援】 絵本の取組及び家庭啓発	4	親子で絵本に親しむことのできる取組を行った	15	3.4	4	親子で絵本の読み聞かせを楽しんだ家庭 80%以上	8	3.1	A (3.3)	○大谷文庫を玄関に設置し、親子がいつでも絵本を借りられる環境を作ったことで、親子で絵本に触れる機会が増えている。親子で絵本を手取るきっかけづくりができた。 ○人権講演会で保護者に、幼児期の絵本の出会いの大切さを感じてもらえたり、絵本の選び方について知らせることができた。 ○絵本の好きな園児が多くクラスに自ら絵本が手に取れる本棚を作っている。保育者に「読んで」と絵本を持ってきたり、友達と並んで絵本を広げて知っているものを言葉で言ったりする姿がある。 ●毎週の絵本貸し出しをしても、読んでもらっていない家庭がある。 ●大谷文庫の利用家庭が特定になっている。 ●大谷文庫が低年齢児用の絵本が少ない。	・貸出状況の把握がしやすい工夫をする。(貸し出しの紙をクラスごとにする等) ・低年齢の園児用の絵本も用意する。 ・親子絵本タイムを、参観日の時間にもつ。
特別支援教育	・園児が見通しを持って活動できるように、見てわかる工夫・言葉かけを行い自分で取り組もうとする姿が育っている。 ・関係機関や専門機関、療育機関からの助言を受けながら、支援が必要な園児への配慮を行っている。 ▲支援が必要な園児の実態や援助についての職員共有	一人一人の良さ(強み)を発揮し互いに認め合える学級づくり	【特別支援教育】 チーム保育の実施 支援が必要な園児の支援内容をクラスで検討しながら、インクルーシブな保育を行う	4	園内の職員で、支援が必要な園児の実態や支援方法について共通理解を図っている	16	3.4	4	園内の支援が必要な園児の実態や支援内容について情報が共有され、お互いに学び合ったり、姿を伝えたりするようになった	13	3.3	A (3.4)	○クラス内で園児の実態や支援内容についての話し合いを行うことができた。 ○クラス内の基礎的環境整備を行い、支援が必要な園児には個別に配慮を行った。担任と加配職員と連携を取りながら、園児が自分のできる力が積み重なるよう進めている。 ○支援が必要な園児で食事面への配慮が必要なケースは、給食室と連携を取りながら、その子に応じた対応を行っている。 ○職員会で、園内で支援が必要な園児の共通理解を行い、実態や支援方法の共有に努めている。加配配置されている園児の対応について、訪問支援等の記録を全職員に回覧し、より詳しく情報共有できるようにした。 ●保育等を受けていない支援が必要な園児の実態や支援のあり方についての情報提供が無く、早延長保育で関わるときに戸惑う。 ●発達障がい等への知識・スキルアップ	・職員会の中に、支援が必要な園児の情報提供をする時間を設ける。 ・加配職員が悩みを共有できる場をつくる。
地域に開かれた園づくり	地域の特産物に触れたり地域の方と関わったりするなど、いろいろな経験ができた。園からも地域の特産物のクッキングをしたり食べたりすることで、さらに興味をもって地域の良さを感じることができた。 ▲年間計画の見直し 交流クラス、回数、時期の検討	地域の人や自然と触れ合う喜びを感じられるよう保育内容を工夫	【地域との連携】 地域資源を活用した取組を進める。	4	園児の興味や関心から地域資源を活用した	5	3	4	地域資源の活用について考え、指導計画に位置付けた	3	2.8	B (2.9)	○田植えやらっきょう堀りなど地域の方に指導を頂きながら楽しんで行う行事が沢山あり、園児の良い体験になっている。 ○普段、関わる機会が少ない中高生との交流が計画され、よい取り組みの一つと感じる。 ○園外への散歩に出かけ、地域の人に声をかけられるとタッチをするなどして応えていた。保育部は、地域の方との交流行事に関わることはないが、地域の自然・人に関わる機会を大切にできた。 ○保護者の得意分野を活かし、科学遊びを見たり、サッカー体験を行い園児の興味関心が高まった。 ●地域資源の捉えが、職員の中で曖昧な部分がある。 ●指導計画の確認・実際行ったことなどを追記していき修正する。	・地域資源を見える化する。(お散歩マップや園庭マップに手を加え、誰もが見やすい分りやすい工夫をし活用する) ・交流がないクラスも、その様子を見学する。

【総括評価基準】
A:十分達成 平均3.2以上 B:概ね達成 平均2.4以上 C:変化の兆しあり 平均1.6以上 D:未達成

令和7年度 学校関係者評価書

園名	北栄町立由良こども園			
学校関係者評価日	令和8年2月24日			
評定	項目 (重点目標)	最後まで取り組む子 (自分なりにチャレンジ)	いきいきとあそぶ子 (夢中になって遊ぼう)	おもいやりのある子 (思いを伝え合う仲間)
	園自己評価	A	A	A
	関係者評価	A	A	A
	(評定内容)	A.十分達成 B 概ね達成 C 変化の兆しあり D 未達成		

取り組みの成果と課題		・意見 ○改善点
げんき	<p>○ゆらっこタイムでいろいろな運動遊びを計画し実施。選べる・楽しい雰囲気の中で体を動かせる環境が良かった。また、異年齢で取り組むことで、年上の友達から遊び方を学び刺激を受けてみようとする意欲に繋がった。</p> <p>○1つのコーナーでも難易度を替え園児が選択できる環境を用意し、その子の実態に応じた援助を行ったことで、運動が苦手な園児も「やったらできた」という満足感が次に繋がった。</p> <p>○友達と一緒に楽しく体を動かして遊ぶ経験が積み重なっている。</p> <p>○生活全般の動作を体の動きと捉えて関わり幼児期に経験させたい様々な動きが経験できた。</p> <p>●年齢ごとで経験させたい動き・運動遊びも、計画的に取り入れていく。</p>	<p>「研究」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境の配慮や体験を通して園児は学んでおり言葉の表現に繋がっている。 ・研究揭示等工夫されている。保護者にも分かりやすく伝える工夫をしていって欲しい。 <p>○研究での成果が家庭にどう繋がっているか</p> <p>「特別支援教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な園児も多いが、職員との支援の差があると子どもも不安になるので、職員が支援内容等を共有し園児が安心して過ごせるようにしてほしい。 <p>○支援の必要な園児も早朝・夕方保育を利用して、支援内容等を早延長担当職員にも周知してほしい。</p> <p>「絵本の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会や発表会の取組の中にも園で絵本を大事にした取組が行われていることが伝わってきた。 <p>「行事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運動会が暑い時期での開催だったので、もう少し時期を遅らせたほうが良い。 <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○来年度の改善点の中で、保育者がプラスの言葉かけを意識していくとあったが、保護者の課題でもある。
えがお	<p>○身近なものを教材として取り入れる際、そのものの持つ性質(大きさ、色、音、硬さ、温度、変化など)を教材として用意することで、園児の好奇心や探求心に繋がっていった。</p> <p>○植物や生き物等を身近に置き、いつでも観察・飼育できる環境を整えたクラスが増えた。</p> <p>○図鑑や写真、探検カードを用意しておくことで、見つけたものを比べ同じ・違いに気付いたり、他の植物・生き物にも関心を持って見たりしていた。</p> <p>○職員研修で、職員自身が園周辺の自然物・生き物を知ることができた。</p> <p>○園児の発見、工夫などを受け止め、「どうやったの?」「どうなると思う?」等と問いかけることで考えたり仮定を立てたりする姿がある。</p> <p>●園児の興味関心から、試行錯誤や探求する姿に繋がる環境や援助について深めていく。</p>	
なかも	<p>○遊びの中で、自分が気付いたことや思ったことを自分なりの言葉で保育者や友達に伝えていく。友達と遊ぶ中で、友達の考えを聞きながら遊びを進める姿が育ってきている。</p> <p>○職員は、園児の考えを聞こうとする・分かろうとするなど子どもの意見を尊重しながら関わることを意識するようになってきた。低年齢児では、指さしや、身振り等で伝えようとする児の思いを受け止めて言葉で返していくようにしたことで、園児自らの発信が増えてきた。</p> <p>○描画活動や、お話の絵の聞き取りの中で、聞いてもらって嬉しい時間となっている。取り組み方の工夫をしながらかつていく。</p> <p>●友達との関わりの中で一方的な主張をし、相手の考えと折り合いをつけながら遊びを進めることが難しい姿がある。保育教諭が園児の思いを言葉にして受け止めながら、相手の思いに気付くような仲立ちが引き続き必要。</p>	
開かれた園づくり	<p>○田植えやらっきょう堀りなど地域の方に指導を頂きながら楽しんで行う行事が沢山あり、園児の良い体験になっている。</p> <p>○小中高生との交流が計画され、地域の様々な人との関わりがある。</p> <p>○園外への散歩に出かけ、地域の人と声を掛けあうことができた。保育部は、地域の方との交流行事に関わることはないが、地域の自然・人に関わる機会を大切にできた。</p> <p>○保護者にグロスターチャーターになっていただき、科学遊びやサッカー体験を行い園児の興味関心が高まった。</p> <p>●地域資源の捉えが、職員の中で曖昧な部分がある。 ●指導計画の確認・追記修正が必要</p>	
特別支援	<p>○クラス内で園児の実態や支援内容についての話し合いを行うことができた。</p> <p>○基礎的環境整備を行い、支援の必要な園児には個別に配慮を行った。担任と加配職員と連携を取りながら、園児が自分でできる力が積み重なるよう進めている。</p> <p>○支援の必要な園児で食事面への配慮が必要なケースは、給食室と連携を取りながら、その子に応じた対応を行っている。</p> <p>○職員会で、園内で支援が必要な園児の共通理解を行い、実態や支援方法の共有に努めている。加配配置されている園児の対応について、訪問支援等の記録を全職員に回覧し、より詳しく情報共有できるようにした。</p> <p>●療育等を受けていない支援の必要な園児の実態や支援のあり方についての情報提供が無く、早延長保育で関わるときに戸惑う。 ●発達障がい等への知識・スキルアップ</p>	
子育て支援	<p>○大谷文庫を玄関に設置し、親子がいつでも絵本を借りられる環境を作ったことで、親子で絵本に触れる機会が増えている。親子で絵本を手取るきっかけづくりができた。</p> <p>○人権講演会で保護者に、幼児期の絵本の出会いの大切さを感じてもらえたり、絵本の選び方について知らせたりすることができた。</p> <p>○絵本の好きな園児が多くクラスに自ら絵本が手に取れる本棚を作っている。保育者に「読んで」と絵本を持ってきたり、友達と並んで絵本を広げたりしている姿がある。</p> <p>●毎週の絵本貸し出しをしても、読んでもらっていない家庭がある。</p> <p>●大谷文庫の利用家庭が特定のになっている。 ●大谷文庫が低年齢児用の絵本が少ない。</p>	

令和7年度 28名のかぜ組の皆さん ご卒園おめでとございます

3月。旅立ちと別れの季節です。

3月13日(金)に、かぜ組さんとのお別れ会を行いました。かぜ組さんが、卒園式で歌う歌を歌ってくれたり、自分の得意なことを見せてくれたり、小さい年齢の友達とは触れ合い遊びを楽しんだりし、とても和やかな会となりました。大きく成長されたかぜ組さんの歌声を聞きながら、今までの園での様子を思い出し嬉しさと寂しさで目頭が熱くなりました。

3月23日(月)はいよいよ卒園式です。別れは寂しくもありますが、出会えたことに感謝し、園での思い出や学んだことを胸に、自信を持って次のステップに進んでほしいと思います。かぜ組の子ども達が、これからも自分の良さを発揮しながら、友達と仲良く伸び伸びと成長されますよう職員一同祈っています。

0～4歳児の子どもたちは、3月24日(火)で今年度のクラスでの教育・保育は修了となります。3月25日(水)～4月2日(木)までの期間は、年度末・年度初め休業日となります。この期間は、次年度の準備や引継ぎを行うため、保育の希望を聞き取り預かり保育を実施します。通常のクラス保育でなく合同保育等を行うこととなりますので、ご了承ください。

令和8年度の入園式・進級式は、4月3日(金)です。新年度、またみんな揃って元気で会いましょう！

保護者の皆様には、この1年間、園運営に関しまして、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。また、PTA活動では役員の皆様をはじめ、保護者の皆様のご協力をいただき感謝申し上げます。子ども達一人ひとりが、自分のペースで伸びやかに成長されており、職員一同喜んでいます。至らぬ点もあったことと思いますが、今後も職員皆で力を合わせて子どもさんの育ちを応援していきたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



かぜ組さんが、ラQでランドセルを背負った小学生をつくっていました。期待に胸膨らんでいますね。

2月25日、保護者アンケートや職員による自己評価をもとに、園評議員の方に「学校関係者評価」をしていただきましたのでご報告いたします。職員による自己評価も載せていますので、ご一読いただくと嬉しいです。由良こども園の良さを活かしながら、今後もより良い園づくりに努めていきたいと思っております。



A 十分達成 (80%以上)、B 達成 (80%~60%)、C もう少し (60%~40%)、D 不十分 (40%以下)

今年度の重点目標		今年度の取組の成果(○)と課題(●) 園の職員の自己評価より	自己評価	学校関係者評価
健やかな心と体のための	<p>げんき 自分なりの チャレンジ</p> <p>★進んで体を動かし繰り返し楽しんで遊ぶ</p>	<p>○ゆらっこタイムでいろいろな運動遊びを計画し実施。選べる・楽しい雰囲気の中で体を動かせる環境が良かった。また、異年齢で取り組むことで、年上の友達から遊び方を学び刺激を受けてみようとする意欲に繋がった。</p> <p>○1つのコーナーでも難易度を替え園児が選択できる環境を用意し、その子の実態に応じた援助を行ったことで、運動が苦手な園児も「やったらできた」という満足感が次に繋がった。</p> <p>○友達と一緒に楽しく体を動かして遊ぶ経験が積み重なっている。</p> <p>○生活全般の動作を体の動きと捉えて関わり幼児期に経験させたい様々な動きが経験できた。</p> <p>●年齢ごとで経験させたい動き・運動遊びも、計画的に取り入れていく。</p>	A	A
心通して	<p>なかま 思いを伝え合う仲間</p> <p>★自分なりの言葉(動作・表情)で思いを伝え合う喜びを感じる</p>	<p>○遊びの中で、自分が気付いたことや思ったことを自分なりの言葉で保育者や友達に伝えている。友達と遊ぶ中で、友達の考えを聞きながら遊びを進める姿が育ってきている。</p> <p>○職員は、園児の考えを聞こうとする・分かろうとするなど子どもの意見を尊重しながら関わることを意識するようになってきた。低年齢児では、指さしや、身振り等で伝えようとする児の思いを受け止めて言葉で返していくようにしたことで、園児自らの発信が増えてきた。</p> <p>○描画活動や、お話の絵の聞き取りの中で、聞いてもらって嬉しい時間となっている。取り組み方の工夫をしながら継続していきたい。</p> <p>●友達との関わりの中で一方的な主張をし、相手の考えと折り合いをつけながら遊びを進めることが難しい姿がある。保育教諭が園児の思いを言葉にして受け止めながら、相手の思いに気付けるような仲立ちが引き続き必要。</p>	A	A
身のまわりのことを	<p>えがお 夢中になって遊ぼう</p> <p>★身近な環境に親しみ、様々なこと・事象に興味関心をもって遊ぶ</p>	<p>○身近なものを教材として取り入れる際、そのものの持つ性質(大きさ、色、音、硬さ、温度、変化など)を教材として用意することで、園児の好奇心や探求心に繋がっていった。</p> <p>○植物や生き物等を身近に置き、いつでも観察・飼育できる環境を整えたクラスが増えた。</p> <p>○図鑑や写真、探検カードを用意しておくことで、見つけたものを比べ同じ・違いに気付いたり、他の植物・生き物にも関心を持って見たりしていた。</p> <p>○職員研修で、職員自身が園周辺の自然物・生き物を知ることができた。</p> <p>○園児の発見、工夫などを受け止め、「どうやったの?」「どうなると思う?」等と問いかけることで考えたり仮定を立てたりする姿がある。</p> <p>●園児の興味関心から、試行錯誤や探求する姿に繋がる環境や援助について深めていく。</p>	A	A

評議委員さんからのご意見

《研究》

- ・環境の配慮や体験を通して園児は学んでおり言葉の表現に繋がっている。
- ・研究掲示等工夫されている。保護者にも分かりやすく伝える工夫をしていって欲しい。
- 研究での成果が家庭にどう繋がっているか

《特別支援教育》

- ・支援の必要な園児も多いが、職員の支援の差があると子どもも不安になるので、職員が支援内容等を共有し園児が安心して過ごせるようにしてほしい。
- 支援の必要な園児も早朝・夕方保育を利用しているので、支援内容等を早延長担当職員にも周知してほしい。

《絵本の取組》

- ・運動会や発表会の取組の中にも園で絵本を大事した取組が行われていることが伝わってきた。

《行事》

- 運動会が暑い時期での開催だったので、もう少し時期を遅らせたほうが良い。

《その他》

- 来年度の改善点の中で、保育者がプラスの言葉かけを意識していくとあったが、保護者の課題でもある。